



東京歯科大学広報



優勝を手にして、充実した表情の剣道部男子部員：平成19年8月5日（日）、岡谷市民総合体育館

第39回歯学体夏期部門開催

剣道部、見事部門優勝

冬期部門と合わせ、総合成績は4位入賞

第39回全日本歯科学学生総合体育大会の夏期部門が、7月28日(土)より8月12日(日)まで松本歯科大学の事務主管により長野県近郊を中心に開催された。本学からは夏期25部門中19部門に約370名の学生が参加して熱戦を繰り広げ、剣道部が総合優勝をする他、バレーボール部、硬式庭球部、軟式庭球部が準優勝を果たすなど健闘。昨年より1つ順位を上げ、総合4位入賞を果たした。

2007年7・8・9月

本号の主な内容

226号

- ・第39回歯学体夏期部門開催
- ・訃報 高橋庄二郎名誉教授ご逝去
- ・延世大学校歯科大学との学生交流

- ・科学研究費補助金平成19年度新規採択課題の要旨

水泳部19連覇ならず

今年で39回目を数える「歯学体」。水泳部門においては、これまでの本学OB・OGの功績が、数々の大会記録を塗り替え、実に第14回大会より(第20回大会を除く)その確固たる地位を築いていた。

残念ながら今年はその連覇の夢が潰え、総合3位に終わったが、常に他大学の目標でありながら、プレッシャーを全く感じさせない勇姿は、大変立派なものであった。

剣道部 王座再び 一年で返り咲く

昨年の歯学体は準々決勝で敗れ、三連覇を逃した東京歯科大学剣道部。今年はその悔しさをバネに、あらたな努力と工夫で王座を奪還した。今季の歯学体における東歯勢の総合優勝ゼロの危機を回避させるとともに、今秋には歴史的偉業へ臨む。

強豪ひしめく予選リーグを1位で通過

歯学体剣道部門公式団体戦(1チーム5人制)は、予選リーグを行い、各ブロックでの1、2位が決勝トーナメントへ進出する方式を採用している。

本学剣道部が組み込まれたブロックは、日本歯科大学新潟生命歯学部、日本歯科大学歯学部、日本大学松戸歯学部など有力校がひしめき、今大会随一とも言われる戦国リーグ。

早くも第一試合から本学とともに優勝候補に挙げられている日本歯科大学新潟生命歯学部(日歯新潟)と対戦となり、先鋒が敗れる苦しい立ち上がりであったが、3-1で逆転勝ちして幸先のよいスタートとなった。

続く有力校日歯大も4-1で打ち破ると、東北大学歯学部を3-1、朝日大学歯学部を4-0と危ない試合運びで4連勝。

最後に待ち受けるは、昨秋の関東医歯薬獣医科大学剣道大会、決勝戦でも対戦した強豪日本大学松戸歯学部。しかし、ここも4-1で圧勝し5戦全勝で予選リーグ1位での決勝トーナメント進出を果たした。

最大のピンチ 準決勝

決勝トーナメント1回戦は岩手医科大学歯学部。ここも3-1で下し、7年連続の4強進出を決めると準決勝の相手は決勝トーナメント常連の九州歯科大学。試合巧者の九州歯科大学は、巧みな試合運びで先鋒、次鋒とも一本勝ちながら連勝で王手を

かける。今大会、はじめて追いつかれた本学の、中堅は他校に知らぬものはないと言われるほど活躍してきた三條恵介君(6年)。(しかしながら6年生ではその実力を維持するのも難しい。この展開なら三條戦を引き分ければ、圧倒的に有利になる九州歯科は、つばぜり合いの反則(つばぜり合いの状態で不当に相手から離れない状態)を取られながらもくつつき離れず、三條君に技を出させない。試合開始から3分30秒を過ぎ、残りも30秒を切った。さすがの三條君もこのまま引き分けか...重苦しい雰囲気の中、放った渾身のメン、審判の旗がきれいに三本上がった!残り時間わずか20秒の事であった。

それでも残り2人のうち、1人が引き分け負けで敗退が決まる不利な状態に変わりはない。副将は和田 健君(4年)。積極的に仕掛けるがなかなか一本が奪えない。刻々となくなる時間...残りも2分を切ったその刹那、和田の放ったメンがきれいに決まった。三條君が苦しめられたお返しとばかりに和田君も、つばぜり合いの反則をもらいながらも一本勝ちでついに二勝二敗、取得本数も二本ずつの同点へと引きずり込んだ。

大將は、昨年国体にも出場した石田圭太君(3年)、さすがに石田君も簡単には一本が奪えず苦しんだが、ドウを決めるとこれも一本勝ちで、絶体絶命の大ピンチを土俵際のうっちゃりで辛くも乗り切った。

決勝戦も逆転勝ちで王座奪回

決勝戦の相手は、予選リーグで下した日歯新潟であるが、さすがは優勝候補の一角を占めるチーム。他リーグの強豪校を撃破し、今度こそリベンジと本学の前に立ちはだかる。

本学のオーダーを研究し、予選リーグとはオーダーを組み替えてきた日歯新潟との激戦は、先鋒から副将まで一勝一敗二分けながら取得本数ではわずかに一本リードされた不利な展開で大將戦へ。大將石田君(3年)の相手は、予選リーグ初戦で引き分け、個人戦二段以上の部決勝戦では、延長5分50秒に及び激闘の末わずかな差で苦杯を喫した4年生。三たびの激突となった両雄の最終決勝は、激しい攻防の末、石田君がコテ二本を連取し、東歯大剣道部が王座陥落からわずか一年で鮮やかに返り咲きを果たした。

今季の歯学体では本学唯一の総合優勝となった剣道部門であるが、平成14年以来6年間で4度の優勝。

歯学体よりも上のレベルと言われる関東医歯薬獣医科大学剣道大会(目下四連覇中)と併せ実に8度の優勝で黄金時代を築いている。

この安定感は、核になる選手の存在や個々の選手の高いモチベーションによる努力をはじめとして、一般大学との大会にも歯学体・関東医歯薬獣医科大学に向けた戦略的な取り組みで参加していること、歯学体・医歯薬獣大会後にはレポートの作成、メンタルトレーニングの導入、合宿時の勉強会(歯科と剣道の関連テーマ)、確立されたOB会の支援体制、といったさまざまな要因の成果が結びついたものと言えよう。

歯学体に続く今秋、関東医歯薬獣医科大学剣道連盟は創立五十周年を迎え、本学剣道部が記念大会の主管校としてその任にあたる。

現在、本学剣道部は同大会四連覇中であるが、五連覇を達成すれば連盟新記録となる。歯学体王者として臨む五十周年の記念大会主管を歴史的記録で飾るべく、剣道部一丸となって偉業達成に挑む。

「写真・文章協力 剣道部OB会広報」



剣道部門 白熱した戦いとなった、大将戦：平成19年8月5日(日)、岡谷市民総合体育館

バレーボール部門、硬式庭球部門、軟式庭球部門は、準優勝

バレーボール部門では、男子が33年ぶりに優勝を果たし、見事部門別で準優勝を果たした。



バレーボール部門 3枚ブロックの「カベ」を打ち抜き見事男子総合優勝：平成19年8月4日(土)、大町市運動公園総合体育館



硬式庭球部門 相手のコートへ渾身のショット：平成19年7月31日(火)、軽井沢塩沢地区民宿コート



ソフトテニス部門 相手のコートへボレーを決める：平成19年7月30日(月)、一宮市テニス場

硬式庭球部門は、男子が3位、女子が4位と奮闘し準優勝を、軟式庭球部は男子が4位、女子が優勝をあげ、部門別で見事準優勝を果たした。3部活とも、日頃からの練習の積み重ね、及び試合経験が今大会においての好結果につながった。

様々なクラブ・学生が健闘

総合成績には直接的には貢献しないまでも、個人戦では大活躍し、大会を大いに盛り上げたクラブ・学生も多い。ここに一部紹介したい。

陸上部門では、山崎晴香さん(4年)が女子100m及び110mハードルで優勝、多田恵子さん(2年)が女子400m・800mで優勝した他、他種目でも奮闘、総合3位入賞を果たした。また、総合優勝こそ涙を飲んだものの軟式庭球部門においては、池田朋子さん・大山陽子さん組(2年)が女子個人戦ダブルスで圧巻の強さを発揮、水泳部門においては、男子800mフリーリレーで、柄 慎太郎君・西村逸郎君・田中章啓君(4年)・長谷川大悟君(3年)の組が優勝を果たした。

来年は東北が舞台に

平成20年度の第40回大会は、岩手医科大学歯学部事務主管により、岩手県を中心に開催される予定である。

第39回歯学体総合成績(入賞した大学のみ)

優勝 愛知学院大学歯学部

5位 広島大学歯学部

準優勝 日本大学歯学部

6位 九州歯科大学

3位 大阪歯科大学

4位 東京歯科大学



4位入賞のカップを持って記念撮影(歯学体評議委員の佐山真也君(5年))



表彰部門・表彰選手がズラリ(学生課前の掲示より)



陸上部門 ハードルを華麗に飛ぶ山崎晴香さん(4年) : 平成19年8月5日(日)、松本平広域公園陸上競技場



ゴルフ部門 狙うはグリーン中央。ヘッドを思い切り走らせた。:平成19年8月3日(金)、軽井沢72ゴルフ東コース



陸上部門 優勝を果たした力走の多田恵子さん(2年) : 平成19年8月5日(日)、松本平広域公園陸上競技場



サッカー部門 ロングパスで、相手の陣地へ:平成19年8月1日(水)、千曲川リバーフロント スポーツガーデン

第39回歯学体入賞部門

剣道部門	優 勝	スキー部門	4 位
バレーボール部門	準優勝	硬式野球部門	5 位
硬式庭球部門	準優勝	ヨット部門	5 位
ソフトテニス部門(軟式庭球部)	準優勝	卓球部門	7 位
陸上競技部門・水泳部門	3 位		



バスケット部門(男) 狙うは3点! 決めるぜ、3Pシュート:平成19年8月1日(水)、ホワイトリング



ヨット部門 風を味方につけて快走。見事総合5位:平成19年8月4日(土)、蒲郡海洋ヨットハーバー



バスケット部門(女) 手首を聞かせて必殺のスナップショット:平成19年8月2日(木)、南長野運動公園体育館



弓道部門 「狙い」を定めて集中:平成19年8月2日(木)、塩尻市営弓道場



バドミントン部門 サーブで相手を揺さぶれ:平成19年8月1日(水)、松本平公園体育館



柔道部門 気合で一本:平成19年8月5日(日)、松本市梓川体育館

佐山真也歯学体評議委員

「私は、2年間歯学体の評議員をさせて頂きまして本当に大変でしたが、各クラブ活動の頑張りにより、第38回よりも1つ順位をあげて総合4位になったことには、大変感動いたしました。後輩の皆さんは、今年の順位に満足することなく、次の大会では総合優勝出来るように、日々練習に精を出して頑張ってください。最後になりますが、今まで支えてくださった他大学の評議員の方や先生方、そして歯学体に参加しました皆様にはとても感謝をしています。本当にありがとうございました。」



水泳部門 力泳、勝利のタスキをつないでいった：平成19年8月4日(土)、長野運動公園総合運動場 アクアウイング



硬式庭球部門 味方の声援を受けながら渾身のショット：平成19年7月31日(火)、軽井沢塩沢地区民宿コート



卓球部門 相手の動きを逃さない：平成19年8月1日(水)、新潟市体育館



ソフトテニス部門(男) 試合前、中尾部長の指示を熱心に聞く、ソフトテニス部男子部員：平成19年7月30日(月)、一宮市テニス場



硬式野球部門 狙うは一発ホームラン、打球は左翼スタンドへ一直線！：平成19年8月1日(水)、松本市野球場



空手道部門 試合会場にて、顧問の先生方と記念撮影：平成19年8月5日(日)、岡崎中央総合体育館

教授就任のご挨拶



生化学講座

東 俊 文

伝統ある本学において生化学講座を担当させていただくことになり、責任の重さに身の引き締まる思いであります。前任の木崎教授はさまざまな改善を断行され、学生の教育に対して大きな効果を上げられました。さらに研究においても全国の歯科生化学会において常に先進的な仕事をされ、学会の指導者としても重要な活動をされてこられましたことは内外に多く知られています。私もその姿勢を継承し、より良い教育に努力して参ります。実践診療における科学の重要性を認識し、歯学の発展に寄与する人材を育成して多くの人材を全国に輩出する源にしたいと思っております。特に、昨今の歯科医療を取り巻く環境は厳しさを増すと同時に、歯科医療の高度化にともない国民全体の健康管理における歯科医療の占める部分は大変大きくなっております。病気を未然に防ぐ医療が非常に注目を集めておりますが、この領域こそ、歯科医療が中心的役割を果たしていくものと考えられます。また、先端医療の分野も歯科医療が非常に魅力的な分野となっており私どもが特に力を入れております。再生医療、抗加齢医療も含まれます。この領域での研究は大変な勢いで進んでおり、実践的研究も多く歯科診療に応用される日も近づいております。研究がどれだけ新しくまた社会に

とり有益であるかを訴えねば研究費を獲得することも困難となっておりますので私は歯科診療の中で研究する環境を十分に生かし、多くの臨床家を招き入れて基礎的実践的研究を推進してまいりたいと思っております。再生医療、抗加齢医療はとかく商業主義との境が不明瞭になり、重要さが正しく認識されていない部分があります。私どもはそのような流れに組することなく、しかも実践的研究を推進してまいる所存であります。若輩浅学非才でありますので本学諸先輩がたのご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

略歴

- 昭和53年3月 筑波大学附属高等学校卒業
- 昭和54年4月 慶応義塾大学医学部入学
- 昭和60年3月 慶応義塾大学医学部卒業
- 昭和61年4月 慶応義塾大学大学院医学研究科(内科学専攻)入学
- 平成2年3月 慶応義塾大学大学院医学研究科(内科学専攻)修了
- 平成6年2月 博士(医学)の学位受領(慶応義塾大学)
- 昭和60年5月 慶応義塾大学病院 内科研修医
- 平成2年4月 慶応義塾大学医学部 内科学教室助手
- 平成2年5月 カナダトロント大学医学部子供病院病理学教室に研究留学
- 平成5年6月 アメリカ合衆国ハーバード大学医学部実験医学講座に研究留学
- 平成11年12月 慶応義塾大学医学部 内科学教室助手
- 平成15年4月 慶応義塾大学医学部内科学 内科学教室専任講師
- 平成16年3月 順天堂大学医学部 免疫学教室
- 平成16年11月 東京歯科大学口腔科学研究センター(分子再生研究室) 講師
- 平成18年1月 東京歯科大学口腔科学研究センター(分子再生研究室) 助教授
- 平成19年4月 同 職名変更 准教授
- 平成19年8月 東京歯科大学 生化学講座 教授

学内ニュース

博士(歯学)学位記授与
第564回(平19.7.11)授与
第548回(H18.2.15)合格
井本 裕之(補綴・甲)第1669号・甲965号
第565回(平19.9.12)授与
第517回(H15.4.9)合格
花上 伸明(オーソペディック・甲)第1558号・甲878号

第536回(H17.1.19)合格
宇治川 清 登(オーソペディック・甲)第1625号・甲924号
第548回(H18.2.15)合格
奥田 倫子(保存・甲)第1659号・甲955号
第548回(H18.2.15)合格
小林 菜穂(児歯・甲)第1668号・甲964号
第556回(H18.11.8)合格
菊地 誠(矯正・乙)第1691号・乙712号

第557回 (H18.12.13) 合格

鄭 哲 均(病理・乙)第1700号・乙717号

第560回 (H19.3.14) 合格

今 井 り え(児歯・甲)第1722号・甲1005号

第560回 (H19.3.14) 合格

北 總 博 之(矯正・乙)第1726号・乙719号

第560回 (H19.3.14) 合格

井 原 郁 夫(歯内・甲)第1728号・甲1009号

澁川義幸講師 ベストポスター賞を受賞

平成19年6月9日(日)、10日(月)におこなわれた第2回トランスポーター研究会(昭和大学上條講堂、品川区)において生理学講座の澁川義幸講師が「歯牙硬組織(エナメル質・象牙質)形成にかかわる方向性Ca²⁺輸送とNa⁺ / Ca²⁺交換の連関」の演題でベストポスター賞を受賞した。本ポスター賞は発表内容の新奇性、プレゼンテーション、また研究成果の内容が優れている発表に贈られる賞である。

トランスポーターはチャネルやレセプターと共に細胞膜に存在するタンパク質で内因性物質だけでなく、薬物や環境化学物質を含む多くの外因性物質も輸送する。最近では、トランスポーターが高齢化疾患関連遺伝子に関連するとされ、多くの疾患の治療薬開発の標的分子と期待されている。澁川講師はSLC(solute carrier)ファミリーのトランスポーターであるNa⁺/Ca²⁺交換体の象牙芽細胞・エナメル芽細胞における発現を示し、石灰化機能というSLCにおける新たな機能を発表し着目された。なお、本年度の日本トランスポーター研究会の第一回関東部会は、千葉大学大学院薬学研究科と共に澁川義幸講師が組織委員となり開催する予定である。

第251回大学院セミナー開催

平成19年7月2日(月)午後5時より千葉校舎第1教室において、第251回大学院セミナーが開催された。今回は、広島大学大学院医歯薬学総合研究科 創生医科学専攻病態探求医科学講座 歯科薬理学の土肥敏博教授を講師にお迎えして「神経因性疼痛発症の分子機構」と題する講演をうかがった。

痛みの発生機構について侵害受容性疼痛、関連痛、神経因性疼痛、心因性疼痛を説明に加えながら、治療上困難とされる神経因性疼痛の発

症機構と新たなる治療薬の研究状況について説明がなされた。その中で、脊髄のグリシンニューロンの活動が痛みの抑制に関与していることから、トランスポーターによる再取り込みを抑制することにより、長期にわたり寛解が認められたことから、グリシントランスポーターの抑制物質は新しい視点の鎮痛薬となりうることが提示され、非常に興味深い内容の講演であった。



講演される土肥教授：平成19年7月2日(月) 千葉校舎第2教室

第252回大学院セミナー開催

平成19年7月5日(木)午後5時より千葉校舎第2教室において、第252回大学院セミナーが開催された。今回は、元松本歯科大学大学院教授で現在同大学院客員教授の新井嘉則先生を講師にお迎えして「歯科用小型CTと実験動物用マイクロCTの開発、および画像センター開設」と題する講演をうかがった。

先生は、1997年に歯科用小型X線CTを臨床応用する事に成功され、これまで5000症例以上の撮影を行いその有効性と安全性を証明されてきた。さらに、軟組織の撮影が可能で体脂肪、肺および肝臓などを撮影でき、骨の再生医療以外



講演される新井客員教授：平成19年7月5日(木) 千葉校舎第2教室

の分野でも、メタボリックシンドローム、肺がんや肝臓がんなどの研究への応用が期待されるin vivo マイクロCTの開発などについても触れられ、その有効性を講演された。また、歯科用CTを一般臨床に応用出来るようにと自ら画像センターを開設された経緯、さらにその利用方法等にも触れられた。聴講された先生方や大学院生からは、歯科用CTについて各専門分野における臨床応用およびマイクロCTの研究応用の仕方などについての質問が出され、歯科用CTへの関心の高さがうかがえた。

父兄会定時総会・修学指導方針説明会開催

平成19年度父兄会定時総会が7月7日(土)に、千葉校舎講堂において開催された。総会は約500名の保護者の出席を得て午後0時40分に開会した。

総会は、本年4月に新会長として就任した青木栄夫父兄会会長の挨拶を兼ねた開会の辞より始まり、引き続いて金子 謙学長より名誉会長挨拶があった後、第6学年保護者諸星裕夫氏を議長に選出し、報告・審議事項に移った。平成18年度会計収支決算、平成19年度事業計画・会計収支予算案などの議案が審議され、いずれも提案どおり可決された。引き続き、任期満了に伴う役員改選が諮られ、選考委員会の議を経て、平成19年度父兄会役員を選出し、午後1時50分に閉会した。

なお、下記の方々に父兄会役員に就任していただき、本年度の父兄会運営の業務に携わっていただきます。

会 長：青木栄夫

副 会 長：佐々木高憲、須田 希、呂 英美

常務理事(庶務)：西宮 寛、東郷幹夫

常務理事(会計)：小鹿典雄、三友和夫

常務理事(貸与)：長野恭輔

常務理事(傷害)：岡田孝枝

常務理事(広報)：佐久間研次、植野順子

理 事：深水千枝子、藤関雅嗣、白田 準、
鈴木伸宏、鳩貝尚志、高野一夫、
荒川幸雄、秋草正美、小林一公、
齋藤 守、中村 隆、森田正純、
宮吉久美

監 事：大久保信男、上田祥士

顧 問：吉田昊哲

なお、総会に先立ち、午前11時30分から厚生棟1階第一食堂において昼食会を兼ねた「全教授および修学指導関係者と保護者との懇談会」が行われた。

また、父兄会定時総会終了後の午後2時から、大学主催による修学指導方針説明会が開催された。最初に講堂において、全学年の学生の保護者を対象に井出吉信副学長、小田 豊教務部長、佐藤 亨学生部長から本学の学生指導の基本的方針、生活指導、勉学指針について、それぞれの立場からの懇切な説明が行われた。

次いで午後3時30分からは各学年に分かれ、学年主任あるいはクラス主任から学年ごとに個々の学年の現状、修学上の注意事項に関するより詳細な説明が行われた。さらに、説明終了後、出席保護者と学年主任・クラス主任との個別面談が実施された。



父兄会定時総会にて挨拶を述べる青木新会長：平成19年7月7日(土) 千葉校舎講堂

市病フォーラム2007開催

平成19年7月7日(土)午後2時より、市川総合病院講堂に於いて、市病フォーラム2007が開催された。

今回は病院感染制御をテーマとして、「職員一人ひとりが院内感染の意識を」と題して行われた。安藤暢敏市川総合病院長の挨拶にはじまり、実行委員長の寺嶋 毅講師(内科学講座)(院内感染症予防対策委員長)の司会進行のもと、病院感染制御の基本的知識・技術を学び、さらに職員一人ひとりの意識を向上させるため、各部門から幅広い講演が行われた。

フォーラムは2部構成で行われ、第1部は当院の医師2名、歯科医師1名、薬剤師1名、看護師1名、管理栄養士1名、M.S.W 1名の計7名により、病院感染に関する重要トピックについて、さまざまな角度から講演が行われた。また、第2部は

「～感染の常識・非常識～」と題し、感染に関するクイズに各所属毎のチーム対抗形式で答えるというイベント形式で行われた。

120名を超える参加者からは、大いに関心が寄せられ、また楽しめるセミナーとして大変有意義なものとなった。

最後に、講演者への感謝状の贈呈の後、武田峰子看護師長から閉会の挨拶があり、閉会した。



説明する寺嶋実行委員長：平成19年7月7日（土）市川総合病院講堂

平成19年度水道橋病院・市川総合病院合同臨床研修歯科医OSCE開催

水道橋病院におけるOSCE(客観的臨床能力試験)は、例年市川総合病院との合同で都立医療機関の臨床研修歯科医も参加して開催されている。11回目にあたる今回は、平成19年7月7日(土)午後1時より水道橋病院19名・市川総合病院7名・東京都立府中病院1名・東京都老人医療センター1名の計28名の臨床研修歯科医が受験者として参加した。

今回は院内に4箇所のステーションを設置し、4課題を実施した。受験者は臨床研修を開始して3ヶ月を経過したところで、これまでの研修の成果と知識を発揮して課題に取り組んだ。8月からは協力型臨床研修施設での実習を控えた受験者もあり、OSCEの経験が大きな刺激となり、更には医療人としての成長の契機になるものと期待される。

当日は水道橋病院・市川総合病院の教職員約60名が運営にあたり、4時間にわたる試験の円滑な実施に尽力した。また、試験終了後には運営スタッフにより反省会が開催され、問題点や今後の課題等が忌憚無く提起された。水道橋病院における研修医OSCEも回を重ね、過去の実施経

験を踏まえて安定した運営が出来るようになってきたが、課題内容や評価方式等、改善すべき点は少なくない。今後も種々見直しを図りながらOSCEを継続的に開催することにより、臨床研修の更なる充実を図りたいと考えている。



課題に取り組む受験者：平成19年7月7日（土）水道橋病院第1診療室

第253回大学院セミナー開催

平成19年7月10日(火)午後5時より千葉校舎第2教室において、第253回大学院セミナーが開催された。今回は昭和大学歯学部口腔衛生学教室の向井美恵教授を講師にお迎えし、「小児の摂食・嚥下リハビリテーションについて」と題する講演をうかがった。

摂食・嚥下機能は、生命維持のための栄養摂取機能でありながら同時に味わいなどによりくつろぎが得られて心に豊かさを運ぶ機能でもあり、障害の有無を問わず小児の心の発達にも大きく関与していると述べられた。発達期の小児の嚥下障害に対しては、障害特徴を考慮した発達程度に応じた摂食・嚥下リハビリテーションが必要となるため、摂食・嚥下機能の発達診断が不可欠であり、各発達段階に特徴的な動きと



講演される向井教授：平成19年7月10日（火）千葉校舎第2教室

その症状および対応方法を提示されるなど、臨床に用いられる検査方法の研究過程や機能発達に關する要因分析などについて、先生の関わられた豊富な研究からその内容の詳細をわかりやすく講演され、100名近い参加者にとってたいへん有意義なセミナーであった。

第254回大学院セミナー開催

平成19年7月11日(水)午後5時より千葉校舎第1教室において、第254回大学院セミナーが開催された。今回は、米国NIH, NIDCR, Gene Therapy and Therapeutics and Craniofacial Researchから、本学の客員教授でもあるDr. Bruce J Baumを講師にお迎えして、「Clinical applications of gene transfer and tissue engineering to salivary glands」と題する講演をうかがった。

内容の主旨の第1点は唾液腺を代用器官として、機能が低下した臓器のタンパク合成・分泌機能を代用させるという考え方である。第2点はアクアポリン(AQP)1の遺伝子を放射線障害の患者の管上皮細胞に導入し、水分分泌の機能を回復させる企画の経過についてである。どちらも、非常に画期的なアイデアと強い信念に裏づけされた研究姿勢に感動を覚えるものであった。そして、90分の時間が短く感ずるひと時であった。



講演されるBaum客員教授：平成19年7月11日(水)千葉校舎第1教室

東京歯科大学千葉病院医療連携症例検討会開催
平成19年7月12日(木)午後4時より千葉校舎講堂において「東京歯科大学千葉病院医療連携症例検討会」が開催された。本検討会は、平成17年度より「症例検討会」として実施されていたものであり、今年度より名称が「医療連携症例検討会」となった。内容は午後4時からの「講演会」部門、

午後6時20分からの「懇談会」部門の2部構成となっている。

講演会の演題は、千葉県歯科医師会および近隣歯科医師会からの代表委員と千葉病院内の医療連携委員で構成されている医療連携協議会で決定している。今年度は6演題、7人の演者にて講演会を構成することとなった。

*今年度の演題および演者は以下の通り。

- ・歯周病と糖尿病
歯周病学講座 澁川義宏准教授
- ・よくある口腔粘膜疾患の見方
口腔外科学講座 神尾 崇レジデント
- ・審美歯科
クラウンブリッジ補綴学講座 三穂乙暁助教
- ・インプラントに伴うトラブルとその対応
口腔インプラント学研究室 古谷義隆助教
- ・MTM - メカニクスの原則と実際 -
歯科矯正学講座 西井 康助教
- ・先進医療
歯内療法学講座 中川寛一教授
口腔外科学講座 須賀賢一郎講師

当日は160名以上の参加者を迎え、薬師寺 仁副学長ならびに高野伸夫医療連携委員長の挨拶から講演会が始まった。各演題20分前後の講演が行われ、演題発表後の質疑応答時には活発な意見が交換された。並行して、参加者からの症例相談に応じる症例相談コーナーを設け、各症例に対し医療連携協議会委員が対応した。

引き続き、厚生棟1階の食堂にて午後6時20分から懇談会が開始され、薬師寺 仁副学長および穴倉邦明千葉市歯科医師会会長の挨拶が行われ、阿部有司習志野市歯科医師会会長のご発声のも



症例発表の風景：平成19年7月12日(木)千葉校舎講堂

と乾杯を行った。懇談会にも70名を超す参加者があり、医療連携・症例相談等各話題について歓談が続いたが、午後8時に名残惜しい雰囲気を残しつつ散会した。



懇談会での乾杯：平成19年7月12日（木）厚生棟1階食堂

大学院夏期ベーシックセミナー開催

4月に開催された大学院春期ベーシックセミナーに引き続き、大学院夏期ベーシックセミナーが2回にわたり開講された。本セミナーは大学院1、2年次生を対象として、基本的な研究技術の修得を目標として開催している。第1回目として平成19年7月19日（木）、20日（金）に衛生学講座の松久保 隆教授、杉原直樹講師による「生物統計学入門講座」、続いて第2回目として平成19年7月24日（火）～26日（木）に法歯学講座の水口 清教授による「遺伝子操作の基本手技」が開講された。「生物統計学入門講座」ではノートPCを使用し、基礎統計やデータの統計分析方法等についての講義が実施された。「遺伝子操作の基本手技」ではRNAの抽出とRT-PCR、DNAの抽出と塩基配列決定およびGene Scan解析をテーマに実習形式のセミナーが実施された。昨年に引き続き再度履



遺伝子操作の基本手技の実習風景：平成19年7月24日（火）基礎歯学実習室

修している学生や教員の受講もあり、研究生生活において必須項目であることがうかがわれる貴重なセミナーとなった。

関口 浩准教授 日本小児歯科学会優秀発表賞を受賞

平成19年7月19日（木）、20日（金）に東京・タワーホール船堀で開催された第45回日本小児歯科学会大会において、小児歯科学講座の関口 浩准教授は、「エナメルリン遺伝子に変異が認められた遺伝性エナメル質形成不全症の一家系」と題する発表を行い、優秀発表賞を受賞した。発表内容は、エナメル質減形成を呈する生後10か月の乳児と同疾患を有する父親および健全歯を有する母親を対象に、「アメロジェニン」、「エナメルリン」、「アメロプラスチン」の各エナメル質形成関連遺伝子のゲノム塩基配列を決定し、比較した結果、患児と父親に共通してエナメルリン遺伝子のエクソン10にアミノ酸変異を起こすミスセンス変異が2箇所あることを明らかにした。2001年にヒトのエナメルリン遺伝子変異が報告されて以来、これまでに13家系・8種類の変異型が報告されているが、本家系の変異はこれまでの報告にはない新たな変異型であった。

今後他のエナメル質形成不全症家系についても遺伝子解析を行い、遺伝子変異と病型との関連性および発症メカニズムを明らかにするとともに、硬組織の再生・遺伝子治療への臨床応用が期待される。



受賞した関口浩准教授

平成20年度臨床研修歯科医募集病院説明会開催
平成19年7月21日（土）午後0時より講堂にて平成20年度臨床研修歯科医募集病院説明会が開催された。本病院説明会は三病院合同で実施さ

れ、当日は悪天候にも関わらず本学学生・他大学学生合計257名の参加があった。

まず最初に、他大学学生を対象とした千葉病院内の見学が行われ、千葉病院研修歯科医の引率により、総合診療科、臨床研修医室、研修医ラボを見学した。引き続き午後1時より、千葉病院、水道橋病院、市川総合病院の順に臨床研修プログラムの説明が行われた。その後、角田正健臨床研修委員長より8月実施の研修歯科医募集選考の概要を説明し、説明会は終了した。

説明会終了後、三病院の個別質問用のブースを設け、各病院とも参加者からの質問に応じ、午後3時に全スケジュールを終えた。



他大学学生による病院内見学：平成19年7月21日(土) 臨床研修医室

歴代学長・役職者の墓参

例年、夏季期間に行なわれている歴代学長・役職者の墓参は、金子 譲学長、永井隆夫事務局長をはじめとする大学職員により下記の日程で執り行われた。

7月24日(火)

血脇守之助 先生 松戸市「八柱霊園」
花澤 鼎 先生 松戸市「八柱霊園」
福島 秀策 先生 松戸市「八柱霊園」
鹿島 俊雄 先生 市川市「市川霊園」

7月26日(木)

高山 紀齋 先生 杉並区「文殊院」
高木圭二郎 先生 新宿区「真英寺」
関根 弘 先生 横浜市「東戸塚霊園」

7月31日(火)

奥村 鶴吉 先生 東村山市「小平霊園」
杉山 不二 先生 府中市「多磨霊園」
松宮 誠一 先生 府中市「多磨霊園」

8月2日(木)

関根 永滋 先生 栃木県藤岡町「慈福院」



血脇守之助先生の墓参を行う金子学長：平成19年7月24日(火) 松戸市「八柱霊園」

平成19年度教育ワークショップ(報告会)

平成19年7月27日(金)午後4時より千葉校舎教養棟第5教室において、平成19年度教育ワークショップ(報告会)が開催された。今年度は「6年一貫したコミュニケーション教育」「臨床実習中の新たな教育フレーム」の2つのテーマとし、小田 豊教務部長の開会の辞、井出吉信副学長の挨拶に続き、小田教務部長の司会のもと、作業グループの発表及び討議がシンポジウム形式で行われた。

「6年一貫したコミュニケーション教育」については、総合診療科の高橋俊之講師、「臨床実習中の新たな教育フレーム」については、臨床検査学研究室の井上 孝教授を委員長とするワーキンググループで昨年11月から検討を重ねてきた結果についておよそ1時間半ずつの発表および質疑応答が行われた。

「6年一貫したコミュニケーション教育」については、平成14年度教育ワークショップ「コミュニケーション学」の作業グループにおいて提示された内容を踏まえ、検討された結果について報告がなされた。まず、現在カリキュラムの中で行われているコミュニケーション学の現状と問題点・改善点について確認し、作業グループとして1・2学年、3・4学年、5・6学年に分かれ検討した。各グループより検討案として出されたGIO、SBOs、LS、EVを

全体会議にて6年一貫したものに整理し、1~6年までを3段階のユニット(1・2学年:ユニット1 コミュニケーション入門「白衣を着ずに 一社会人として」、3・4学年:ユニット2 医療コミュニケーション基礎「白衣を着て 歯科学生として」、5・6学年:ユニット3 医療コミュニケーション実践「白衣を着て 一医療人として」)に分類した教育体系を考えた。最後に、患者に信頼される歯科医師となるためには、単なるコミュニケーション技法の習得で終わることなく、継続した「倫理観の涵養」が必要であることと教員側の指導能力向上のための研鑽も必要である旨説明があった。

「臨床実習中の新たな教育フレーム」については、6年間のカリキュラムの中での臨床実習における問題点として、臨床と基礎の結びつきを理解できない学生、登院中に基礎科目の学力が低下する学生、医局員の能力格差(知識、技能、態度、教育方法)等があげられた。その解決を図るのに加え、さらに上のレベルの日本の歯科界を担うような人材を輩出するためのカリキュラムの構築が必要であるとし、以上のような問題点を解決するた

めに検討した結果について以下の通り報告がなされた。第一に一口腔単位で行う臨床実習を実現する。第二に常に基礎科目の知識を根拠とした臨床判断力を涵養する学習方法を導入する。第三に歯科界を担うような学生と国家試験を目標とする学生それぞれに対応したカリキュラムを作る。第四にこれらを実現させるため、医局員側の能力格差(知識、技能、態度、教育方法)の是正を図ることをあげられた。これら4つを短期的目標、中長期的目標に分けて実現させていく上で病院の診療体制、カリキュラムの再構築も共に検討し、最終的には全員日本の歯科を担う人材に育て上げられるようなカリキュラムを継続して検討していく必要があることが述べられた。

2つのテーマに対し、会場からも多くの質問、意見があり、今後の本学の教育システム、カリキュラム構築・改善に向けて貴重な検討の場となった。教育職員やティーチング・アシスタントが参加したワークショップ(報告会)は、最後に薬師寺仁副学長の閉会の辞で締めくくり、午後8時盛会の内に終了した。

入試ガイダンス開催

東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象として、平成19年度入試ガイダンスが平成19年7月28日(土)に午後2時から水道橋校舎血脇記念ホールで、8月23日(木)には午前10時から千葉校舎で開催された。

水道橋校舎では、東京歯科大学の歴史・教育理念や教育カリキュラム、国家試験合格状況、卒後進路状況、口腔科学研究センター、三病院の紹介、平成17年度文部科学省より選定を受けた特色GP、現代GPの概要等について紹介し、また、平成20年度入学試験の概要について説明した。その後、水道橋教職員の案内により病院見学を行い、希望者については教務部・学生部の教員との個別面談を実施した。当日は48名の参加があり、個別面談希望者の行列ができるなど本学の情報を得ようという熱気に溢れた盛況なガイダンスとなった。

千葉校舎にて開催したガイダンスは、238名もの参加者を集め、大変盛況であった。午前中は、高瀬保晶准教授を中心とした保存修復学講座の協力によりコンポジットレジン修復の体験実習



説明する高橋講師:平成19年7月27日(金)、千葉校舎教養棟第5教室



説明する井上教授:平成19年7月27日(金)、千葉校舎教養棟第5教室

を実施した。実習にてレジン填塞された人口歯はストラップを付けて参加者にプレゼントされた。昼休みには、食事券を用意し第一食堂にて学食のメニューを味わってもらった。午後からは橋本正次教授による「人間とは何か」、柴原孝彦教務副部長による「気になりませんか顔のかたち」と題した二つの模擬授業が行われた。その後、平成20年度入試についての説明があり、入試科目のポイントについて、河田英司教務副部長、望月隆二教務副部長から解説があった。参加者からは、「来年の入試についていろいろな情報が得られて良かった」、「体験実習をすることによって、大学に入学してからどのようなことを教えてもらえるかわかった」などの感想が寄せられた。続いて、大学の特色・カリキュラム等の紹介、学生生活等についての説明の後、学内見学を行い、希望者には個別相談を実施した。学内見学では、実習講義室、臨床基礎実習室、解剖標本室、図書館、千葉病院などを回り、本学の貴重な標本、充実した設備等を示し、また、本学の無線LAN、CBT用PCなどの情報関係設備・環境については、参加者が実際にPCを操作し、その充実した環境を体験した。

今後のガイダンスは、10月6日(土)に水道橋校舎で、11月3日(土)に千葉校舎(東歯祭開催中)で実施する予定である。



体験実習風景：平成19年8月23日(木)、千葉校舎臨床基礎実習室

平成19年度解剖諸霊位供養法会

平成19年9月19日(水)午後2時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにおいて平成19年度解剖諸霊位供養法会が執り行われた。

金子 讓学長はじめ大学幹部、関係教職員、第2学年学部学生、歯科衛生士専門学校学生代表、

ご遺族ならびに東京歯科大学白菊会の方々が参列し、歯科医学の教育と研究のため尊いご意志を持って献体戴いた諸霊位に対し感謝を捧げ、ご冥福をお祈りした。本学開設以来、4千有余柱の御霊に向かい真珠院 石井道彦導師の誦經に続き、金子学長が祭文を奉読し、参列者全員の献花が行われた。

続いて、解剖学講座主任の井出吉信教授の挨拶、ご遺族を代表して江口和子様のご挨拶があり、本年度の解剖諸霊位供養法会を滞りなく終了した。

その後、ご遺族並びに大学関係者が文京区小石川の真珠院を墓参し散会した。



諸霊位に献花する学生代表：平成19年9月19日(水)水道橋校舎血脇記念ホール

第66回歯科医学教育セミナー

平成19年9月25日(火)午後6時より千葉校舎第2教室において、第66回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、鶴見大学歯学部部長・口腔外科学第一講座 瀬戸皖一教授を講師に迎え、「学術会議からの発信」と題した講演をうかがった。

はじめに、専門医制度についてお話しいただいた。厚生労働省によって専門医資格の標榜について認定する学術団体の基準が定められており、認定を受けた団体において、所属する医師、歯科医師はその団体の審査に合格した場合、専門医を標榜できるとのことであった。現在、厚生労働省の認定を受けた歯科関係の団体は、日本口腔外科学会、日本歯周病学会、日本歯科麻酔学会、日本小児歯科学会の4つであるとのことであった。

また、専門医制度の今後の課題として、専門医というものを国民に分かりやすく伝えていく必要がある旨説明があった。国民が求めていることは、その専門医が診療においてどのような能力をもっているのか、その“腕”について国

民の側に立って分かりやすく説明することと、専門医を標榜することが単なる権威づけに陥らないよう自己研鑽を積んでいくことが大事である旨説明があった。

最後に、学術会議活動についてご説明いただいた。その活動の4本柱として、政府に対する政策提言、科学者間ネットワークの構築（知の統合）、科学者の役割についての世論啓発、国際的な活動等を行っているとのことである。具体的な活動として、日本学術会議における最近のシンポジウム・公開講座として取り扱っているテーマ等についてご説明いただいた。当日は120名近い参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



講演される瀬戸歯学部長：平成19年9月25日（火）千葉校舎第2教室

平成19年度第3回水道橋病院教職員研修会開催

平成19年9月25日（火）午後5時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにて平成19年度第3回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は「個人情報保護について」と題して、水道橋病院顧問弁護士の江坂春彦先生にご講演いただいた。

江坂先生は、「個人情報の保護に関する法律」の趣旨について、情報提供に主眼を置く考え方と、個人情報の適切な管理に主眼を置く考え方の両方から分かり易く解説された。また、個人情報を医療機関として利用する目的としてどのようなものがあるか例示され、医療従事者として、個人情報を取り扱う上で特に注意しなければならない状況等について説明された。特に、適正な医療を提供する上で、診療記録は正確かつ最新の内容に保つよう努めなければならない、患者から求められた場合に診療情報として提供すべき事項、記録の開示方法、内容訂正を求め

られた場合の対応等について、詳細に解説していただいた。

医療従事者には守秘義務があり、法律との整合性で判断が難しい場合もあるが、本研修会においては実例を交えたお話を伺うことが出来、非常に有意義な研修会であった。



講演される江坂先生：平成19年9月25日（火）水道橋校舎血脇記念ホール

第255回大学院セミナー開催

平成19年9月26日（水）午後6時より千葉校舎第1教室において、第255回大学院セミナーが開催された。今回は岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 咬合・口腔機能再建分野の皆木省吾教授を講師にお迎えして「顎口腔機能と咬合」と題する講演をうかがった。

咬合と顎口腔機能異常との関係について、演者の講座において行われてきた一連の研究の流れを解説していただいた。顎関節に対する機械的過負荷について、平衡側における咬合接触の有無に着目した研究は非常に分かりやすく、かつ興味深い内容であった。さらに、得られた結果を臨床にフィードバックされており、咬合接触の与え方、独自のクラウン作製法、スプリン



講演される皆木教授：平成19年9月26日（水）千葉校舎第1教室

ト療法など多岐にわたる内容をご紹介いただいた。大変内容の濃い有意義なセミナーであった。

片倉 朗講師、矢島哲郎大学院生がゴールド・リボン賞を受賞

平成19年9月29日(土)、30日(日)、第52回日本口腔外科学会総会・学術大会が名古屋市の名古屋国際会議場において開催された。本学会は過去最高の2,000名を越す参加者となり総演題数466題、ポスター演題240題であった。その中で優秀とされる演題に与えられるゴールド・リボン賞を口腔外科学講座の片倉 朗講師、矢島哲郎大学院生が受賞した。

矢島大学院生は「ヒト由来口腔扁平上皮癌細胞株Ho-1-N-1からの癌幹細胞(SP細胞)の分離およびその性質」、片倉講師は「唾液を用いた口腔癌のスクリーニング検査 全唾液のプロテオミク

ス解析」と題されるものであった。

2演題とも口腔外科学講座のテーマとしている口腔癌における研究で、学術的に価値が高く、臨床に応用できる研究結果であり、学会の発展に寄与するものと評価され受賞となった。なお、片倉講師は昨年に続き2年連続での受賞となった。



受賞した片倉講師(右)と矢島大学院生(左)

訃報 高橋庄二郎名誉教授ご逝去



本学名誉教授高橋庄二郎先生(口腔外科学第2講座・現口腔外科学講座)は、平成19年8月9日、胃ガンのため逝去された。享年83歳。

高橋先生は昭和20年9月東京歯科医学専門学校を卒業後、口腔外科学を専門とされ、直ちに同校副手、助手、講師、さらに同25年に新制東京歯科大学講師となられ、助教授を経て、同40年12月教授に昇任された。その後、東京歯科大学病院長、東京歯科大学千葉病院長(東京歯科大学移転により初代千葉病院長)、学監、大学院研究科長と要職を歴任され、東京歯科大学の発展のために尽力された。平成元年、定年退職され、東京歯科大学名誉教授となられた後も東京都立大塚病院口腔科顧問として総合病院における歯科・口腔外科の人材育成のため活躍された。

先生の学会における活動は、日本口腔外科

学会、日本口腔科学会、日本口蓋裂学会、日本顎変形症学会、日本顎関節学会など数多くの学会で重責をはたされ、伝統ある東京歯科大学口腔外科学教室はもちろん、日本の口腔外科の発展に寄与された。

高橋先生は口腔外科疾患の中でも特に唇顎口蓋裂と顎変形症を専門とされ、唇顎口蓋裂に関しては、若き日より積極的に各種手術を試みられ、本邦に大きな影響を与えられた。大学退任後に執筆された著書「口唇裂・口蓋裂の基礎と臨床」はその研究成果の集大成である。また先生の顎変形症に関する功績は大きく、現在、世界で最も多く施行されている下顎枝矢状分割法をいち早く本邦に導入し、本症に対する外科治療の基礎を築かれた。

これらのご功績に対し、先生は平成13年春の叙勲において勲三等旭日中綬章を授与され、さらに今回、正五位に叙された。

生涯をかけ、大学および口腔外科学発展のために尽くされた高橋先生に限りない敬意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(高野伸夫)

長期海外出張者報告

口腔外科学講座 講師 須賀賢一郎

大学のご厚意により、平成18年7月1日より、口唇裂口蓋裂、顎顔面変症および睡眠時無呼吸症候群に対する外科的治療体系を習得するため、カナダ国ノバ・スコシヤ州ハリファックス市にあるダルハウジー大学歯学部口腔外科学講座およびQueen Elizabeth Health Sciences Centreに一年間留学させていただきました。大学のあるハリファックス市は、カナダ東部の大西洋沿岸にある経済、文化の中心都市で、「ニュー・スコットランド」の意味を持つ州名のとおりカナダ最初の英語圏入植地であります。したがって、ダルハウジー大学も1818年創立の沿革を持つカナダで2番目に古い大学で、同大歯学部は1908年にカナダ海軍歯学校として創設されたのち、1912年現在の学部として移行した伝統と由緒ある歯学部であります。現在の口腔外科学主任教授David S. Precious教授は主任教授のほかダルハウジー大学歯学部部長も兼任しており、さらにカナダ口腔外科学会会長、International Cleft Lip and Palate Foundation理事長、International Journal of Oral and Maxillofacial Surgeryの編集査読委員も務めています。同教授は口唇裂口蓋裂ならびに顎矯正外科を専門にしており、臨床ならびに基礎的な研究論文を数多く発表しているだけでなく、驚くべき数の手術を行っており、豊富な臨床経験も併せ持っています。偶然にも私の留学期間中、これまでの業績が認められ、カナダで最も栄誉があるとされるOrder of Canadaの勲位を受章され、盛大なパーティーが催されたことは、良き思い出の一つになりました。

今回の出張では、冒頭に述べました種々の疾患における手術症例を中心に、成書からはうかがい知ることの出来ない、謂わば手術の勘所とそのコツについて学ぶことが主な目的でありました。出張期間中に行われた手術総数は521例であり、うち口唇裂口蓋裂を含む顎顔面変形症例は266例と全件数のほぼ半分を占めており、その他、日本ではまだ治療の確立されていない睡眠時無呼吸症候群患者の修正術が14例ありました。これらの手術のほとんどに、教授を始め力

ナダスタッフのご厚意により、手術チームの一員として参加することができました。

先天奇形とくに口唇裂口蓋裂および顎顔面変形症は顎発育ならびに咬合が関与することから形成外科医ではなく、今後口腔外科医が携わらなければならない疾患の一つであり、私たちの講座においても積極的に取り組んでいる疾患であります。しかし、先天奇形に起因する顎顔面変形症は高度の変形や解剖学的位置異常から予測しえない異常骨折や大出血をきたすこともあり、早急に安全かつ確実な治療方法の確立が必要とされます。今回の出張でこのような難症例に対して、より安全で確実な手術手技や周術期管理が学べたことは、今後、本学で手術を遂行する上において大変有意義な研修を行うことができたものと考えております。

この度、このような長期にわたる海外出張の機会を与えてくださいました関係の方々へ深謝申し上げますとともに、帰国後はここで得た知識や経験を、臨床だけではなく、教育や研究にも活かせるよう一層精進する所存であります。



カナダ・ノバスコシヤ州ダルハウジー大学歯学部部長兼口腔外科学講座主任教授David.S.Precious先生（写真右）と手術室にて：平成19年6月8日（金）

トピックス

微生物学講座主催「歯周病は全身疾患に関わる」国際シンポジウム開催

平成19年9月20日(木)午後3時から6時まで水道橋校舎血脇記念ホールで本学微生物学講座が主催した「歯周病は全身疾患に関わる：Involvement of Periodontal Disease in Systemic Diseases」というシンポジウムが開催された。岡山大学村山洋二名誉教授ならびに本学奥田克爾教授が司会のもと基調講演ニューヨーク州立大学 Robert J. Genco教授から、世界的に研究が展開されている歯周病は、口腔機能低下をもたらすだけでなく健康破綻をもたらしているエビデンスを話された。次いで招待講演として、ルイズビル大学教授 Denis F. Kinane 教授から、歯周病が心疾患を含む循環障害、呼吸器疾患などにどのように関与するについての概説が行われた。さらに、パネルディスカッションのスピーカーとして広島大学大学院 西村英紀教授から歯周病の治療は糖尿病の改善に繋がることの症例を示しながら紹介された。本学 石原和幸准教授は、実際に心冠動脈疾患部位などから歯周病原性細菌が見つかること、さらに歯周病原性細菌がどのように血管内皮細胞に侵入するか示された。最

後に、本学加藤哲男准教授からは歯周病とメタボリックシンドロームを話題に、タバコと歯周病の関係、運動が歯周病原性細菌内毒素の病原性回避に繋がるような内容を話された。

活発な討論を経て、歯周病は全身性の疾患として捉えるべきであること、そして歯周病の予防と治療の重要性をさらに多くの人たちに知ってもらう必要性のあることが明白にされた。今回のシンポジウムを通して、100名近い参加者と共に「歯科界は多くの人たちのヘルスプロモーションにさらに貢献していこう」との確認を得た。



シンポジウム後の記念撮影：平成19年9月20日(木)水道橋校舎血脇記念ホール

学生会ニュース

第39回歯学体結団式

第39回全日本歯科学生総合体育大会夏期部門は、7月28日(土)から8月12日(日)まで16日間にわたり、松本歯科大学事務主管のもと、長野県を中心に開催された。

大会を迎えるにあたり、7月4日(水)午後12時20分より千葉校舎体育館において、冬期部門を含む21競技部門のクラブ部員が、一堂に集い結団式が挙行された。

まず金子 譲学長、佐藤 亨学生部長から激励の言葉が贈られ、学生を代表して学生会運動部長の今村健太郎君(第4学年)が挨拶した。引き続いて、バドミントン部の主将・井口直彦君(第4学年)が「日頃鍛えた心と技を遺憾なく発揮し、

東京歯科大学の名を汚さぬようフェアプレーに努め、この大会で得た経験を“人間性豊かな歯科医療人”への成長の糧とすることを誓います」



選手宣誓、バドミントン部主将の井口君が飛躍を誓った：平成19年7月4日(水)千葉校舎体育館

と決意の宣誓。続いて、歯学体副評議委員の金子児太郎君(第4学年)の司会進行のもと、各クラブ主将からも「必勝と健闘」を誓う頼もしい言葉が述べられ、昨年(総合5位)以上の成果へ向けて期待が高まった。最後に出席者全員で校歌を斉唱し、午後12時50分に閉式となった。



金子学長の激励を熱心に聞く各クラブの部員：平成19年7月4日(水) 千葉校舎体育館

SCP日本代表選抜大会 樋口はる香さん(第5学年)が見事入賞!

歯科学生による研究の実践発表会“スチューデント・クリニシャン・プログラム(SCP)”は、国際的歯科界の発展を担う研究者・教育者・開業医の輩出を目的として、世界32カ国において、各国歯科医師会主催のもとデンツプライ社が協賛し実施されている。第13回日本代表選抜大会は8月22日(水)新歯科医師会館にて開催され、全国から22校が参加し白熱したテーブルクリニックが行われた。

樋口はる香(第5学年)さんは、東京歯科大学代表として“Expression of stress-adaptive enzyme and channel in xerostomia model mouse -searching for key molecule for restoration of salivary gland cell function-”と題して、英語でのテーブルクリニックによるプレゼンテーションを行った。樋口さんは第3学年在籍中より、生化学講座で卒業論文の実験を開始し、多忙な登院期間中も時間を見つけては、この日のために準備をしてきた。残念ながら上位入賞は逃したが、審査終了後の表彰式・レセプションでは健闘が称えられた。

樋口さんは、「この大会への参加を通じてたくさんの方に出会い、支えて頂き、研究や発表は一人で出来ることではないということを実感しました。さらに多くの先生方に自分の研究を発

表する機会を持ち、数々の貴重なご意見やご指摘を頂けたことは今後の研究活動の大きな励みになるものでした。また、この大会で出会えた他校の学生たちは本当に能力も意欲も高い方ばかりで良い刺激を受けるとともに、全国に素敵な友人を増やせたことも嬉しいことでした。この大会で得た経験を活かし、さらに研究を続けているいろいろな場所で発表をしていきたいと思っています。卒業研究を行っている後輩の皆さんも、ぜひ研究するだけでなくいろいろな場所で発表してたくさんの出会いと刺激を受けて欲しいと思います。」と語った。



発表を終えて、ホッと一息。生化学講座の先生方と記念撮影する樋口さん(右中)：平成19年8月22日(水) 新歯科医師会館

延世大学校歯科大学学生代表が本学訪問

昭和63年度から開始され、今年で20年目を迎えた本学の姉妹校・延世大学校歯科大学(韓国)との学生交流プログラムは、劉炯碩学生副学長、鄭翰聖指導教授、車相濬教学課長引率のもと男子8名、女子6名の合計14名の学生代表が平成19年8月20日(月)~8月24日(金)までの4泊5日の日程で来日した。本学からは、大平貴士学生会歯科学生交流会局長(4年)を中心とした有志学生が参加した。

20日(月)12時40分着の大韓航空機OZ102便で来日した、延世大学校歯科大学一行を成田空港で本学学生代表が出迎え、15時より第1会議室において金子讓学長、井出吉信副学長、佐藤亨学生部長他、大学関係者出席のもとに歓迎式典が行われた。その後、会場を三井ガーデンホテル千葉「平安」にて歓迎夕食会が催され、両校学生の親睦も一気に深まった。

21日(火)は午前9時より千葉校舎第1会議室に

において、坂英樹講師(解剖学)による特別講演の後、「休日の過ごし方」と題した1回目の学生会議が行われた。引き続いて千葉病院・千葉校舎見学をし、その後市川総合病院に場所を移して、見学の後、夕方より浦安市舞浜の東京ディズニーシーにおいて楽しい一時を過ごした。

22日(水)は昨日に引き続き、午前9時より千葉校舎第1会議室において、「今医療で注目されていること」と題した2回目の学生会議が行われた。会議終了後は水道橋病院を訪問し、榎石武美水道橋副院長以下、教職員の歓迎を受けた後、水道橋病院を見学。見学後は、グループに分かれての都内観光となった。

24日(木)は早朝より箱根へ出発し、箱根神社を参拝の後、午後から桃源台にて昼食、午後は大涌谷、小涌園を見学し、延世大学校の学生と本学学生がグループを組んで、各所の散策を楽しんだ。

最終日の25日(金)は9時45分より第1会議室において金子学長、佐藤学生部長ほか大学関係者出席のもとに歓送式が行われた後、一行は成田空港へ向かい13時50分発の大韓航空機OZ101便にて帰国した。本プログラムは5日間という短い期間ではあったが、学生間のみならず教職員同士の交流も活発に行われ、両大学の姉妹校としての絆を一層深めることができた5日間となった。

この学生交流プログラムは、隔年で相互の大学を訪問しあいながら親交を深めていくもので、来年は、本学学生が訪韓する予定となっている。この交流をとおして学生が得るものは語学力の向上はもちろんのことであるが、今後継続的な交流をしていくことで、将来の歯科医療界を担う上でグローバルな視野を育てることができるといえるだろう。

「学生交流を終えて」

大平貴士学生会歯科学生交流会会長

「東京歯科大学は韓国の延世大学校との姉妹校であり、両校の学生同士の交流を目的とした本大学交流会は、今年で20周年を迎えました。

今年度は例年の学生会議や東京歯科大学と3つの病院見学、市内観光の他に、箱根への日帰りツアーを企画しました。箱根神社や大涌谷、そして小涌谷温泉などを見学し日本の自然の美しさやそこに根付

く文化にふれあい、肌で感じ取ってもらいました。その中で韓国の学生からの大きな驚きや感動の言葉を聞き、今回の新しい企画の成功を確信しました。

昨年度は延世大学校において交流会が行われ、私たちは韓国・ソウルで歓迎され、大変良い経験をさせていただきました。その恩に報いるためにも韓国の学生を戸惑わせることのないように3ヶ月も前からミーティングを重ね、準備をしてきました。また交流会の直前ではメンバー全員に夜遅くまで残ってもらい、学生会議のスピーチの内容を話し合いました。しかし、それでも本番では行き届かないことや問題が山積みし、挫けそうになったときもありました。しかしながら、学生交流会のメンバーたちが協力して会を盛り立てていき、最終日、成田空港出発ロビーで延世大学校のメンバーを見送り、最後のミーティングをしている時、自分の目頭が熱くなっているのを感じました。そして今回参加してくれたメンバーから「参加してよかった、感動した、来年もまた参加したい」などの言葉を聞き、最終的には素晴らしい交流会ができたという事を確信しました。これからもこの交流会が続き、さらに発展していく事を祈っています。

最後になりましたが、今回の学生交流会を行うにあたって、ご尽力いただいた劉学生副学長を始めとする延世大学校教職員の方々、金子学長を始めとする東京歯科大学教職員の方々、全面的なバックアップをいただいた佐藤学生部長を始めとする学生課の方々、さまざまな面でアドバイス、指導をいただいた樋口はる香総務委員長を始めとする学生交流会OB・OGの方々、そして僕に最後まで付いてきてくれた今年度学生交流会のメンバー、この学生交流会に関わったすべての人に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。」



歓迎式典後の記念撮影：平成19年8月20日(月)、千葉校舎第1会議室

延世大学との学生交流スナップ



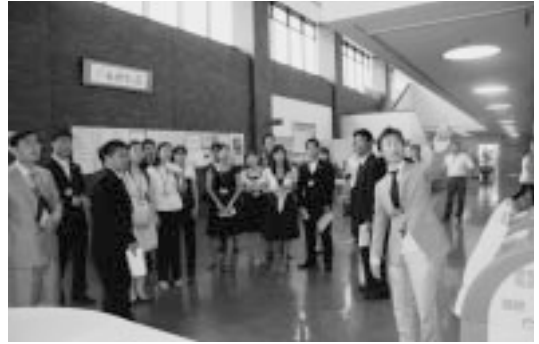
記念品を受け取る大平交流会局長(右)と山崎交流副局長(中):平成19年8月20日(月)、千葉校舎第1会議室



歓迎夕食会、笑顔で乾杯:平成19年8月20日(月)、三井ガーデンホテル千葉



東京歯科大学の歴史を学ぼう:平成19年8月21日(火)、図書館1階史料室



千葉病院を案内する金亨俊君(第2学年):平成19年8月21日(火)、千葉病院1階



模型を前に臨床体験:平成19年8月21日(火)、千葉校舎実習講義棟2階



韓国の伝統衣装に身を包んで記念撮影:平成19年8月22日(水)、千葉校舎第1会議室



今日の運勢は最高:平成19年8月23日(木)、箱根神社



また会いましょう笑顔でお別れ:平成19年8月24日(金)、成田空港

図書館から

本学教員著書リスト

山口 秀晴 監修「知ってほしい歯科矯正治療の基本」わかば出版 2007

奥田 克爾 ほか著「微生物学」第2版
医歯薬出版 2007

櫻井 薫 ほか監訳「インプラント補綴」
永末書店 2007

中川 寛一 ほか執筆「歯内治療学」第3版
医歯薬出版 2007

平井 義人 ほか編「保存修復学 第5版」
医歯薬出版 2007

本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のりにはご寄贈のほど、よろしくお願いたします。

「SCOPUS」講習会開催

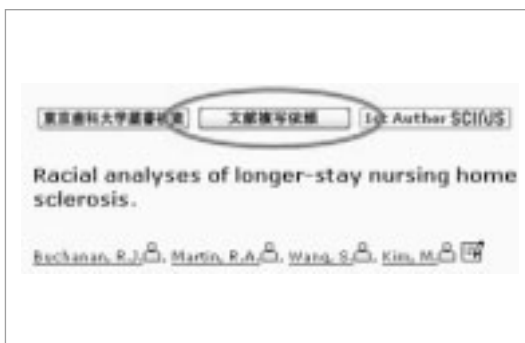
平成19年7月5日(木)午後6時から千葉校舎第1教室において、書誌・引用データベース「SCOPUS」の利用者講習会を開催しました。「SCOPUS」ではひとつの論文から参考文献へのリンク、さらに引用された論文へのリンクなどが表示され、研究への広がりや関連性を把握することができます。講習は専任のインストラクターを招いて約1時間にわたり行なわれました。あいにく日程が学会やセミナーと重なる講座等がありましたが、参加者は80名にもおよび、利用者の関心の高さを示しました。「SCOPUS」は学内限定で、図書館のホームページから利用できます。



「SCOPUS」講習会でインストラクターの説明を聞く参加者：平成19年7月5日(木) 千葉校舎第1教室

文献複写の申込みがデータベースから簡単にできます。

データベースの「医中誌Web」, 「SCOPUS」の検索結果には「文献複写依頼」というアイコンが表示されるようになっています。図書館に所蔵のない文献は、このアイコンをクリックして簡単に文献取り寄せの申込をすることができます。所蔵のある雑誌は所蔵状況が表示されますので、巻・号をご確認ください。なお、オンラインジャーナルで利用できる雑誌も多数ありますので、図書館ホームページ上の「当館所蔵フルテキスト」も併せてご確認ください。



データベース「SCOPUS」検索結果画面

大学史料室から 史料室収蔵品紹介

血脇守之助先生、奥村鶴吉先生合作の茶碗。写真では隠れていますが、茶碗の内側にmcと☺とのサインがあります。箱には「贈 福島君 笠井 直 昭和31年8月18日」とあり、福島秀策先生が寄贈を受けた品と思われます。



歯科衛生士専門学校ニュース

学校説明会開催

平成20年度の東京歯科大学歯科衛生士専門学校への入学希望者を対象とした学校説明会が、平成19年7月27日(金)、8月24日(金)の両日に、それぞれ午前、午後の2部に分けて行われた。この説明会は、歯科衛生士という職業と本校の特徴を理解してもらい、できるだけ多くの受験生を募る目的で、実施しているものである。7月の第1回目には56名の志願予定者と22名の保護者の参加があり、8月の第2回目には46名の志願予定者と24名の保護者の参加があったが、参加者数としては昨年の同時期に行った学校説明会と比べて若干の減少が見られた。本校では来年度の推薦入学選考から、従来の高等学校長推薦に加え、若干名の社会人特別選抜枠を設けて、幅広い人材を集めることにしていることから、社会人の参加も見受けられた。

説明会では、歯科衛生士の職務・将来性、本校の特色、学生生活などについて画像を交えて紹介した後、3年生の学生たちによる最新の設備を用いた臨床基礎実習のデモンストレーションを行った。ついで学生たちとともに、大学の各施設、千葉病院を見学し、最後に来年度入学試験に関する説明を行った。今回の学校説明会では、歯科大学に併設されていることのメリットや充実した設備と講師陣、3年制によるレベルの高い教育と、本年度の卒業生の約半数が、大学病院あるいは総合病院、事業所、行政等へ就職したことなどを伝え、参加者の本学への入学の意欲を高めることができたと感じられた。



学校説明会：平成19年7月27日(金)、衛生士専門学校第3教室

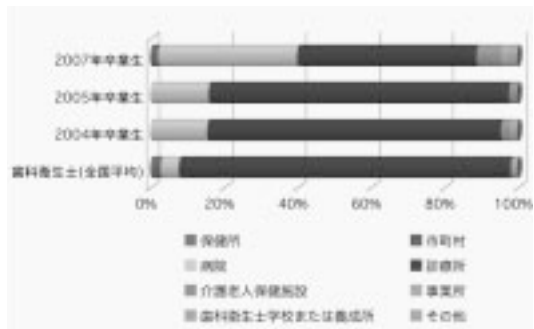
三年制移行後の初めての卒業生・第56期生の就職状況について

歯科衛生士専門学校の第56回卒業生44名は、平成16年度より本校で始まった三年制の過程を修了した最初の歯科衛生士として、4月よりさまざまな臨床の場で活躍している。

平成18年度の求人総件数は、従来より大幅に増加して619件におよび、その内訳は、市町村3件、大学病院および総合病院27件、歯科診療所579件、介護施設1件、歯科関連事業所7件、歯科衛生士専門学校1件、その他1件であった。そのうち、約250件は千葉県内から、約260件は東京都内からの募集であった。

これに対して、第56期生の就職状況は、大学病院や総合病院などに17名、企業などの事業所に3名、さらに市町村の行政にも1名の採用があり、卒業生の約半数が、一般の歯科診療所以外に就職しており、従来とは異なった傾向が見られた。このような大学病院あるいは総合病院、事業所、行政等での採用の増加は、歯科診療所はもちろんのこと関連する幅広い職域から、三年制歯科衛生士に対する期待が高まっていることのあらわれと考えられた。

本校卒業生の就職先と歯科衛生士就業先の比較



平成19年度科学研究費補助金決定

平成19年度科学研究費補助金は平成19年6月15日付で文部科学省および日本学術振興会から配分額の決定が通知された。

本年度、本学に交付される科学研究費補助金の研究種目別決定額および研究者別交付額は別表の通りである。

平成19年度科学研究費補助金交付決定一覧

平成19年7月1日現在

研究種目	件数	交付決定額(千円)		
		直接経費(研究費)	間接経費	合計
基盤研究(A)	1	26,900	8,070	34,970
基盤研究(B)	3	12,500	3,750	16,250
基盤研究(C)	21	25,300	7,590	32,890
萌芽研究	5	4,700		4,700
若手研究スタートアップ	2	2,420		2,420
若手研究(B)	23	20,800		20,800
合計	55	92,620	19,410	112,030

科学研究費補助金 平成19年度新規採択課題の要旨

基盤研究(A) 井上 孝 教授

「機能性インプラントのためのセメント質誘導ペプチド創製」

近年、現在の歯科医学において、インプラントはなくてはならない補綴の手段の一つとなった。その結果、欠損歯列をもつ患者のQOLは著しく向上したといえる。しかし、現実的には、植立時の失敗や経過観察における予後不良例なども、様々な不具合が生じているのも事実である。材料の開発のみではこれらの問題を解決することはできず、より生体に近いものを研究する必要がある。つまり、インプラントの表面改質に関しては物理的改質の開発はかなり進んでいるものの、生物学的・科学的な表面改質技術についてはまだまだ報告例が少ない。本研究では、創製する人工タンパクを用いて、付着上皮様構造と歯根膜機構を持たせようとする、機能的インプラントシステムの確立を目指すものである。

基盤研究(B) 小田 豊 教授

「歯科用合金の耐食性評価のための新たな電気化学的アプローチ」

金合金やチタン合金をはじめとする歯科用材料は元来耐食性に優れており、溶出量や体積の減少で評価するには長時間を要するのみでなく、口腔内環境と異なる酸性の無機溶液での加速試験を行わざるを得ない現状にある。更に、タンパクを含む溶液では溶液自体の腐敗によって長時間の測定が困難である。本研究は最新の電気化学的耐食性評価方法とタンパクの吸着反応の關係に焦点を当てることによって口腔内環境をシミュレートした歯科用合金の迅速な耐食性評価方法を確立することを目的としている。また、チタン合金の添加元素と耐腐食・変色効果を明らかにして、新たなチタン合金の開発に繋げたいと考えている。

基盤研究(C) 兼子 智 講師

「生殖補助医療における精子の品質管理 酸化的DNA損傷の回避とテロメア保護」

卵に人為的に精子を穿刺する顕微受精(ICSI)により出生した児の健全性確保には、穿刺精子の多面的な品質保証、特にDNA損傷の定量的検出ならびにそれを指標とした損傷精子の排除法確立が不可欠である。その基礎研究として、1. 単一細胞のDNAを一括して超伸展し、DNA fiber上のnick位置観察法を開発する。2. グアノシン(G)は4種の核塩基の中で最も酸化を受けやすく、8-OH Gを始めとする酸化成績体を生じやすい。精子はDNA修復を行わず、DNA fiber中に変異塩基が残存している可能性が考えられる。まず抗8-OH G抗体を用いた免疫染色により酸化成績体を検出できるか検討する。3. 染色体末端に局在するテロメア長測定の基礎研究として、合成した蛍光標識ペプチド核酸とハイブリッドしてテロメア長を可視化する。

基盤研究(C) 阿部 伸一 准教授

「筋機能再活性に關与する筋幹細胞分化過程解明のフロンティア」

歯科補綴、筋機能療法などによって筋機能は再活性される。この再活性された筋内では「筋肥大」のメカニズムに沿って組織再構築が生じている。すなわち、筋細胞にメカニカルな刺激が加わると、成長因子をはじめ多くのシグナルを放出し、筋肥大へ向けたアクセルが踏まれ、既存筋細胞のタンパク合成が向上し、さらには筋幹細胞を分化させていく。また、この過程を抑制するために細胞内ストレス(ミトコンドリア系、小胞体系)や抑制因子であるミオスタチンなどがブレーキをかける。本研究はこの筋肥大の過程で生じるアクセルとブレーキの関係の一端を明らかにするものである。

基盤研究(C) 石原 和幸 准教授

「歯周病原性バイオフィーム形成における細菌間相互作用のプロテオミクス解析」

歯周炎は、成人の30%を越す罹患者を持つ国民病とも言える疾患であり、特定のグラム陰性嫌気性桿菌群によって引き起こされるバイオフィーム感染症である。細菌は、バイオフィーム形成により抗菌剤に対する抵抗性の上昇のような性状の変化が起こる。バイオフィーム形成のプロセスで菌

体の密度が上昇すると、情報伝達物質を用いて細菌間でコミュニケーションを行いそれが性状の変化に関わると考えられている。本研究では、歯周病原性バイオフィーム形成に関わる細菌間相互作用をタンパクの発現解析から明らかにし、その相互作用を応用した歯周病原性プラークの形成抑制を試み、それによる新たな歯周炎の予防法の開発を目指している。

基盤研究(C) 渋川 義宏 准教授

「遺伝子発現解析による下顎頭に加齢的变化と変形性顎関節症の病態の解明」

変形性顎関節症は下顎頭に加齢的变化や不正咬合により引き起こされることが報告されているが、その原因は明らかにされていない。インディアンヘッジホッグ(以下、Ihh)は軟骨細胞の増殖や分化を制御することにより長幹骨の成長に重要な役割を担うことが報告されている。我々は、Ihhが下顎頭の発生過程において内軟骨性骨化のみならず顎関節円板の形態形成にも必須であることを明らかにした。さらに、Ihh遺伝子欠損マウスの下顎頭の細胞構築の変化が変形性顎関節症モデルマウスで報告されている変化に類似していることを発見した。本研究では下顎頭の成長発育におけるIhhの機能を明らかにし、さらに加齢的变化と変形性顎関節症に伴う下顎頭の形態変化におけるIhhの役割を遺伝子レベルで明らかにすることを目的とする。

基盤研究(C) 下野 正基 教授

「歯肉付着上皮の接着・細胞移動の分子機構」

本研究では、(1)内側基板にはIV型collagenなどが存在しないのに、なぜ付着上皮はエナメル質と強固に接着できるのか?(2)細胞移動と接着機構がなぜ両立するのか?(3)上皮のダウングロースではどのような接着タンパクが発現するのか?(4)ダウングロースとは反対に長い付着上皮の短小化ではどのような接着タンパクが関与するのか?を分子レベルで検索するのが目的である。本研究により、それぞれの上皮の接着機構と病態との関連が明らかとなり、歯周炎の発症・進行の詳細がわかれば、同疾患の予防、病態のコントロールに寄与することができ、その臨床的意義は大きいと考えられる。

基盤研究(C) 和光 衛 准教授

「歯科用コーンビームCT画像に基づくインプラント周囲骨のクリニカルバイオニクス」

シミュレーションモデリングに関する研究は、乾燥骨などの単一体からの画像データをもとに力学的なシミュレーションが行われているケースがほとんどである。有限要素法を用いたシミュレーション研究の本来の到達点は、個々の患者なり個人に特化し、かつ、縦断的な研究から、症状の診断や予後の予測といった生理的变化を説明できる手段になることである。そこで、生体内に埋入された歯科インプラント体周囲の骨の応力変化をバイオメカニカルに経時的に評価するために、CT画像データに基づいた生の個別シミュレーションを行う。そして、バイオメカニカルな手法が、生理的变化についての説明、予測に適用できるかどうかを考える。

基盤研究(C) 井出 吉信 教授

「歯科インプラントにおける偶発症抑止のための顎骨内部構造の解析」

マイクロCTを用いて、有歯顎、無歯顎及びインプラントが埋入された顎骨内部構造の観察を行い、インプラント手術に必要な解剖学的構造物の位置的観察を行う。また、海綿骨の異方性を考慮した三次元有限要素解析から、主応力ベクトルの表現と骨梁構造を反映した力学的物性値を算出し、顎骨骨梁に生じる応力の伝達経路を明らかにする。これにより、顎骨内部骨梁の三次元ネットワーク構造を把握し、インプラントを介したメカニカルストレスが顎骨に及ぼす影響について解明する。

基盤研究(C) 松坂 賢一 准教授

「口腔エイジング解析によるリジュヴェネーション」

高齢化社会における健康推進には、多角的・多面的な研究を集約し臨床応用へ展開することがきわめて重要である。口腔機能はアンチエイジングに密接に関わるだけでなく、特有の防御機構と修復機構を発達させた特異な器官でもある。この機能は口腔のみならず全身へも多大な影響を与えることの知見も示されてきた。本研究は、口腔内の細胞・組織の老化と機能低下のメカニズムを解明し、細胞機能が低下しないような予防措置、また

は低下している機能を活性化させることを考える。また、口腔組織・細胞のエイジングを解析することによって、口腔のアンチエイジング、さらには全身のアンチエイジングを実現することを目的とし、口腔の健康維持が全身の健康維持へとつながることを社会的に認識させることを目的としている。

若手研究スタートアップ 松永 智 リサーチレジデント

「顎骨の骨梁構造を考慮した高分解能・高精度・大規模有限要素解析」

顎骨海綿骨が力学的立場から担う役割の解明を進めるために、マイクロCTの高分解能撮像分解能のままの要素寸法での高精度FEMを実現する。均質化法という応用数学手法を用いることで海綿骨微細構造に着目した骨の異方性と、生体アパタイト配向性(近年骨強度に深い関係性があることが報告されている)及びCT撮像分解能が応力解析精度に及ぼす影響を考慮したシミュレータとなる。これにより今まで評価することができなかった骨梁の異方性を正確に予測できることから、ナノメートルオーダーの要素をも盛り込んだ世界初の顎骨のマルチスケール解析が実用化されるはずである。

若手研究(B) 村上 聡 助教

「炭酸ガスおよび半導体レーザーによるオーラルアンチエイジング」

近年では創傷治癒の際にレーザーが炎症を抑制する効果や細胞の活性を高めることが明らかとなり、新たなレーザーの活用が模索され、レーザーのLLLT(Low reactive Level Laser Therapy)への応用に関する報告も散見されるようになった。しかしながら、レーザーと細胞の機能発現に関しては未だに不明な点が多い。今回はレーザーにより細胞の活性化を促すサイトカインの発現を検討する。また本研究を通じて口腔の恒常性の維持や細胞の活性化などの多岐にわたるレーザー治療の有用性を証明し、細胞組織の活性を最大限に引き出す新たなモードを検討することで、口腔を基盤に全身の健康を考える口腔のアンチエイジングによる予防医学を作り上げる一助とする。

若手研究(B) 田原 靖章 助教

「クレンチングはストレスを緩和するのか？」

ストレスと顎口腔系との関連についていくつかの報告があるが、不明な点が多い。一般にブラキシズムはストレスによる生体応答のひとつとされ、ブラキシズムに対する臨床的評価は、口腔内の環境を増悪するものとして位置づけられ、その意義はあいまいで統一した見解はない。本研究ではブラキシズムの中でもクレンチングに着目し、クレンチングがストレスを緩和することを証明し、さらに最も緩和効果のあるクレンチングの程度(強度や持続時間)を明確にする。これまではクレンチングの顎口腔系に及ぼす為害作用が注目されてきたが、本研究によってクレンチングによるストレス緩和の効果が明確となりこれまでにない認識が得られる。

若手研究(B) 神尾 崇 レジデント

「X線CTおよび非接触型三次元計測装置より得た顎顔面軟組織形状の統合・分析・評価」

本研究は「非接触型三次元顎顔面形態計測装置で得られた情報は、X線CTから得られた画像情報(DICOM3)より再構築された三次元画像より得られる顎顔面の軟組織情報と一致するか否か」について検討し、非接触型三次元顎顔面形態計測装置による、侵襲の無い、簡便な顔面軟組織形状の検査手法として確立させることを目的としている。顎顔面軟組織形態の計測装置として非接触型三次元形状計測装置SURFLACER VMH-300F(UNISN)を用いる。またX線CT撮影には、本学放射線科が有する装置Somatom Plus4 VolumZoom(Siemens)を用い、その軟組織の抽出は3D構造解析ソフトウェアTRI/3D-BON(ラトックシステム)上で行う。

若手研究(B) 渡邊 章 レジデント

「口唇裂・口蓋裂の候補遺伝子のダイレクトシーケンシングによる解析」

口唇裂・口蓋裂などの疾病遺伝子を確立する分子生物学的遺伝研究は、日本においても進んでいる。しかし、口唇裂・口蓋裂を単一遺伝子病と考えるの変異解析、多因子遺伝子病と考えるのSNPを用いたのcase-control study、TDTは、いまだ後れている。本研究は、原因遺伝子を解

明することを目的とするが、さらに、単一遺伝子病、多因子遺伝子病かを明らかにし、また、機能解析からも発症原因、シグナルを網羅的に解析する。これまで解析してきた遺伝子の再解析によって、いくつかのシグナル経路、メカニズム、関連遺伝子が見つかるものと予測される。そして、近い将来ではないが、診断、原因の追及から疾病の軽減などの治療、さらに予防までにつながる研究と予測される。

若手研究(B) 薬師寺 孝 助教

「口腔粘膜疾患における拡大内視鏡を応用した診断法の確立」

内視鏡カメラはファイバースコープの高技術化やデジタル化による画質向上により、以前では考えられないような微細な病変の描出が可能となった。最近では食道領域で内視鏡カメラの加視光波長領域の調節による超早期癌の画像描出に成功し、Narrow Band Imagingシステムとして注目を集めている。一方口腔癌は年々増加傾向をたどっており、早期癌をいかに検出し、早期診断を確実に行うことができるかが重要な問題となっている。そこで本研究の意図は、拡大内視鏡カメラを用いたNarrow Band Imagingシステムによる口腔粘膜の毛細血管走行パターンや毛細血管系蹄のループ間距離を解析・算出し、口腔癌の早期診断法を確立するものである。

若手研究(B) 大久保 真衣 助教

「MR画像上での予測因子発見プロジェクト - 嚥下機能低下の早期発見に向けて - 」

高齢化社会を迎える今後、嚥下機能の低下を早期に発見し、将来の誤嚥の危険性を予測することの必要性がますます高まるものと予想される。嚥下機能の評価には、嚥下運動に関連する軟組織の形態および嚥下運動に伴うそれらの形態変化を把握することが重要である。磁気共鳴画像検査法(以下MRI)は、軟組織の描出に優れ、電離放射線被曝もないため、嚥下機能の評価に極めて有用と考えられる。そこで本研究では、MRIを利用して、嚥下運動に関連する軟組織の加齢に伴う形態変化、さらに運動機能の変化を分析し、嚥下機能の低下および誤嚥の危険性を予測するために注目すべき因子について検索する。

平成19年度科学研究費補助金研究者別交付一覧

平成19年7月1日現在

研究種目	研究代表者氏名	19年度 新規 採択者	交付決定額 単位(千円)	研究課題
			直接経費	
基盤研究(A)一般	井上 孝 教授		26,900	機能性インプラントのためのセメント質誘導ペプチド創製
基盤研究(B)一般	水口 清 教授		2,600	DNA多型を用いた法歯学的個人識別検査法の適用範囲の拡大と検査法の転換
基盤研究(B)一般	吉成 正雄 准教授		2,900	薬物送達システムを利用した生体多機能化による即時荷重インプラントの開発
基盤研究(B)一般	小田 豊 教授		7,000	歯科用合金の耐食性評価のための新たな電気化学的アプローチ
基盤研究(C)一般	安藤 暢敏 教授		700	ティッシュエンジニアリングを応用した組織再構築型人工食道の開発
基盤研究(C)一般	田中 一郎 准教授		700	光映像技術を用いた表情解析に基づく顔面表情運動障害の診断・治療支援システムの開発
基盤研究(C)一般	佐藤 裕 准教授		800	もう一つのヒトラ蝕原因菌で遅れている遺伝子機能解明への一つのアプローチ
基盤研究(C)一般	村松 敬 講師		500	遺伝子解析ならびにプロテオミクスによる出生前の歯乳頭に潜在する歯牙形成機構の解明
基盤研究(C)一般	河田 英司 教授		700	生活歯漂白はエナメル質表面層のみの白濁化では達成できない
基盤研究(C)一般	伊藤 明代 講師		700	歯周治療におけるバイオフィルム駆逐戦略
基盤研究(C)一般	山本 康人 助教		700	心内膜炎病原因子候補 <i>S. mutans</i> のコラーゲンアドヘシン(Cnm)の機能解明
基盤研究(C)一般	澁川 義幸 講師		600	象牙芽細胞感覚受容機構の解明(TRP・電位依存性チャネル、神経共培養解析)
基盤研究(C)一般	高橋 賢 講師		700	咬合接触状態の変化は中枢制御機能に影響を与えるか
基盤研究(C)一般	高橋 慎一 教授		1,000	歯性病巣の関連する皮膚疾患におけるビオチンの効用
基盤研究(C)一般	高野 伸夫 教授		1,600	プロテオミクス解析による新規口腔癌転移関連遺伝子の同定
基盤研究(C)一般	間宮 秀樹 講師		1,400	ラジオアイソトープを用いたリドカイン歯槽骨内浸透性の観察
基盤研究(C)一般	須山 祐之 講師		1,700	医療施設等における微小昆虫類による院内感染拡大に関与に関する研究
基盤研究(C)一般	兼子 智 講師		2,300	生殖補助医療における精子の品質管理 酸化的DNA損傷の回避とテロメア保護
基盤研究(C)一般	阿部 伸一 准教授		1,900	筋機能再活性化に関与する筋幹細胞分化過程解明のフロンティア
基盤研究(C)一般	石原 和幸 准教授		1,500	歯周病原性バイオフィルム形成における細菌間相互作用のプロテオミクス解析
基盤研究(C)一般	澁川 義宏 准教授		1,100	遺伝子発現解析による下顎頭に加齢の変化と変形性顎関節症の病態の解明
基盤研究(C)一般	下野 正基 教授		1,100	歯肉付着上皮の接着・細胞移動の分子機構
基盤研究(C)一般	和光 衛 准教授		2,500	歯科用コンビームCT画像に基づくインプラント周囲骨のクリニカルバイオマクス
基盤研究(C)一般	井出 吉信 教授		2,400	歯科インプラントにおける偶発症抑止のための顎骨内部構造の解析
基盤研究(C)一般	松坂 賢一 准教授		700	口腔エイジング解析によるリジュヴェネーション
萌芽研究	佐野 司 教授		700	FLAIR法MR画像による顎関節滑膜炎の病態診断プロジェクト
萌芽研究	新谷 益朗 准教授		500	口腔疼痛抑制の情動的要因と脳内認知機構の解明 - 「バスカルの歯痛」の神経基盤 -
萌芽研究	吉成 正雄 准教授		1,000	合成ペプチド修飾による感染防御システム・インプラントの創製
萌芽研究	高久勇一朗 助教		1,700	負電荷酸素原子の生体反応に関する病理組織学的研究
萌芽研究	神山 勲 助教		800	吸光度を用いた口腔癌病域診断装置の開発
若手研究スタートアップ	佐々木徳高 助教授		1,130	歯牙発生におけるAlchla2の機能解析
若手研究スタートアップ	松永 智 助教授		1,290	顎骨の骨梁構造を考慮した高分解能・高精度・大規模有限要素解析
若手研究(B)	佐竹 良之 講師		900	再生表面角膜移植片の性状およびバリアー機能解析
若手研究(B)	田 聖花 講師		900	非侵襲ムチン定量による眼表面評価法の確立

研究種目	研究代表者氏名	18年度 新規 採択者	交付決定額 単位(千円)	研究課題
			直接経費	
若手研究(B)	天谷 哲也 講師		200	2波長発振レーザー照射後の組織は、どのような治癒形態をたどるのか?
若手研究(B)	武本 真治 助教		700	生体分子修飾によりチタンは防食可能か?
若手研究(B)	古谷 義隆 助教		900	吸収性プレートを用いた顎骨欠損部での新しい骨延長法の開発
若手研究(B)	渡邊 裕 講師		600	視覚・聴覚刺激を用いた痴呆高齢者の誤嚥性肺炎予防に関する研究
若手研究(B)	川北 哲也 講師		1,000	シングルセルからの角膜培養上皮シートの作成
若手研究(B)	吉田 悟 客員講師		1,100	角膜実質幹細胞による実質細胞外マトリックスの再生
若手研究(B)	音成 実佳 助教		700	歯肉癌の顎骨浸潤をマイクロで画像化するプロジェクト
若手研究(B)	音成 貴道 助教		600	Fusion画像を用いた顎顔面領域への画像診断プロジェクト
若手研究(B)	五十嵐章浩 助教		1,000	レーザー照射による軟化象牙質の改質および再生は可能か
若手研究(B)	服部 雅之 講師		900	三元合金化による新しい歯科鑄造用チタン合金の開発
若手研究(B)	小平 順可 助教		500	軟質口蓋義歯は摂食・嚥下に快適か?
若手研究(B)	荒瀧 友彦 講師		300	即時荷重インプラントの荷重プロトコルを上部構造設計から確立する
若手研究(B)	伊藤 太一 助教		500	インプラント周囲炎におけるリスク検定システムの開発
若手研究(B)	澁井 武夫 助教		1,000	口唇裂・口蓋裂児におけるインプリンティング遺伝子の発現変化を調べるプロジェクト
若手研究(B)	上田 貴之 講師		700	インターネットを利用した学習素材の評価はアンケート法が最適なのか?
若手研究(B)	村上 聡 助教		1,500	炭酸ガスおよび半導体レーザーによるオーラルアンチエイジング
若手研究(B)	田原 靖章 助教		300	クレンジングはストレスを緩和するのか?
若手研究(B)	神尾 崇 レジデント		1,100	X線CTおよび非接触型三次元計測装置より得た顎顔面軟組織形状の統合・分析・評価
若手研究(B)	渡邊 章 レジデント		1,400	口唇裂・口蓋裂の候補遺伝子のダイレクトシーケンスによる解析
若手研究(B)	薬師寺 孝 助教		1,500	口腔粘膜疾患における拡大内視鏡を応用した診断法の確立
若手研究(B)	大久保真衣 助教		2,500	MR画像上での予測因子発見プロジェクト・嚥下機能低下の早期発見に向けて・
合 計			92,620	

人物往来

国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

太陽歯科衛生士専門学校(学生82名、教員3名)

平成19年7月18日(水)微生物学実習

千葉県立衛生短期大学(学生49名、教員1名)

平成19年7月19日(木)解剖学教室見学

大宮歯科衛生士専門学校(学生40名、教員2名)

平成19年7月30日(月)微生物学実習

静岡県立大学短期大学部(学生42名、教員2名)

平成19年7月31日(火)解剖学講義受講、病院、

他見学

国際医療福祉専門学校(学生44名、教員3名)

平成19年8月3日(金)解剖標本室、解剖実習室

見学

つくば歯科衛生専門学校(学生43名、教員2名)

平成19年8月30日(木)解剖学教室、病院、他

見学

東京歯科衛生専門学校(学生160名)

平成19年9月4日(火)、28日(金)解剖学教室、

病院、他見学

自衛隊中央病院(学生57名、教員2名)

平成19年9月27日(木)解剖学教室、解剖標本
室見学

市川総合病院

東京慈恵会医科大学附属柏病院(職員8名)

平成19年9月11日(火)病院施設等見学

海外出張

眞木吉信教授(衛生)

ヨーロッパ歯学会で発表のため及び北欧の
大学視察のため、7月4日(水)から11日(水)ま
で、デンマーク・ヘルシングアーアへ出張。

遠藤隆行講師(生理)

International Brain Research Organizationで発表
のため、7月10日(火)から18日(水)まで、オ
ーストラリア・メルボルンへ出張。

石上恵一教授、澁澤真美大学院生(スポーツ歯学)
World Conference of Stressで発表のため、8月21
日(火)から28日(火)まで、ハンガリー・ブダ
ペストへ出張。

加藤広之講師、山田雅司大学院生(歯内療法)

International Federation on Endodontic Associa-
tionsで発表のため、8月21日(火)から26日(日)
まで、カナダ・バンクーバーへ出張

薬師寺仁教授(小児歯科)

日中笹川20周年記念式典に出席及び、北京大
学口腔医学院小児歯科学講座にて講演を行う
ため、8月25日(土)から30日(木)まで、中
国・北京へ出張。

安藤暢敏教授(市病・外科)

International Surgical Week 2007で講演のため、
8月25日(土)から9月1日(土)まで、カナダ・
モントリオールへ出張。

丸茂健教授(市病・泌尿器科)

2007年国際法中毒学会で発表のため、8月25日
(土)から9月1日(土)まで、アメリカ・シアトル
へ出張。

西井康助教(歯科矯正)

南カリフォルニア大学歯学部にて共同研究のため、
平成19年8月26日(日)アメリカ・ロサンゼルス
へ出発。帰国は平成20年8月25日(月)の予定。

島崎潤教授、田聖花講師(市病・眼科)

5th International Conference on the Tear Film &
Ocular Surfaceで発表のため、9月4日(火)から

16日(日)まで、イタリア・タオルミナへ出張。

篠崎尚史センター長(角膜センター)

ECのComite Europeen de Normalisationワーク
ショップに参加のため、9月4日(火)から7日
(金)まで、ベルギー・ブリュッセルへ出張。

原田裕久講師(市病・外科)

2007 Asian Chapter Congress of the International
Union of Angiologyで発表のため、9月5日(水)
から8日(土)まで、台湾・台北へ出張。

ピッセン弘子教授(水病・眼科)

European Society of Cataract and Refractive Sur-
geons、Refractive on-line屈折手術学会で発表の
ため、9月7日(金)から15日(土)まで、スウェ
ーデン・ストックホルム及びイタリア・ミラノ
へ出張。

市橋慶之臨床専修医(市病・眼科)

慶應義塾大学眼科プログラムへ参加のため、9
月9日(日)から23日(日)まで、アメリカ・イ
リノイへ出張。

穴澤卯圭講師(市病・整形外科)

14th International Symposium on Limb Salvageで
発表のため、9月10日(月)から16日(日)まで、
ドイツ・ハンブルグへ出張。

松久保隆教授(衛生)

The 4th Asian Conference of Oral Health Promo-
tion for school Childrenアジア学校歯科大会で発
表のため、9月13日(木)から17日(月)まで、
韓国・慶州へ出張。

眞木吉信教授(衛生)

Asian Fluoride Commission Meeting in Koreaに参
加のため、9月14日(金)から17日(月)まで、
韓国・ソウルへ出張。

渡邊弘樹講師、荻原正也大学院生、菅原優大
大学院生(口腔超微構造)

The 29th Annual Meeting of the American Society
for Bone and Mineral Researchで発表のため、9
月15日(土)から20日(木)まで、アメリカ・ハ
ワイへ出張。

篠崎尚史センター長(角膜センター)

ベトナム厚生省との臓器、組織移植に関する
ミーティングに参加のため、9月16日(日)か
ら20日(木)まで、ベトナム・ハノイへ出張。

中島庸也教授(市病・耳鼻咽喉科)外木守雄准教授、佐藤一道助教(市病・オーラルメディシン)スタンフォード大学との睡眠呼吸障害に関する研究打ち合わせのため、9月19日(水)から25日(火)まで、アメリカ・カリフォルニアへ出張。

ピッセン弘子教授、大木伸一視能訓練士(水病・眼科)

レーザー屈折矯正手術見学と会議のため、9月20日(木)からピッセン教授は22日(土)まで、大木視能訓練士は21日(金)まで、韓国・ソウルへ出張。

坂 英樹講師(解剖)

IADR Australian and New Zealand Division 47th Annual Meetingで発表のため、9月22日(土)から28日(金)まで、オーストラリア・アデレードへ出張。

大金 覚大学院生、菅原圭亮大学院生(口腔外科) The 14th European Cancer Conferenceに参加及び発表のため、9月22日(土)から30日(日)まで、スペイン・バルセロナへ出張。

山田 了教授、太田幹夫講師(歯周病)

日本歯周病学会と中華口腔医学牙周病專業委員会との協定書締結に向けての準備に関わる業務のため、9月23日(日)から26日(水)まで、中国・北京へ出張。

篠崎尚史センター長(角膜センター)

アジア・パシフィック(WHO)健康都市フォーラムへ参加のため、9月25日(火)から30日(日)まで、オーストラリア・ゴールドコーストへ出張。

澁川義幸講師(生理)

カルガリー大学との共同研究のため、9月26日(水)から10月3日(水)まで、カナダ・カルガリーへ出張。

大学日誌

平成19年7月

- 2(月) 第251回大学院セミナー
省エネルギーの日・防災安全自主点検日
- 3(火) 教務部(課)事務連絡会
学生部(課)事務連絡会
看護部運営会議(市病)
- 4(水) リスクマネジメント部会
ICT会議
第39回全日本歯科学学生総合体育大会結団式
千葉校舎課長会
口腔健康臨床科学講座会(水病)
- 5(木) 第252回大学院セミナー
SCOPUS利用者講習会
治験審査・倫理委員会(市病)
- 6(金) 会計・用度打合せ会(水病)
- 7(土) 父兄との懇談会
父兄会定時総会
父兄に対する修学指導方針の説明
各学年主任・クラス主任による説明
学年主任・副主任による三者個別面談
市病フォーラム2007(市病)
平成19年度臨床研修歯科医OSCE(水病)

- 9(月) 大学院事務連絡会
病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
臨床教育委員会
医局長会
医療安全研修会
教職員研修会(水病)
- 10(火) 粗大ゴミの廃棄(～12日)
臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
第253回大学院セミナー
院内褥瘡対策委員会(市病)
- 11(水) 学生夏期休暇(～8/31)
基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
第254回大学院セミナー
歯科衛生士専門学校臨床実習委員会
救急委員会(市病)

- | | |
|--|---|
| 11(水) ICU運営委員会(市病)
薬事委員会(水病)
リスクマネージメント部会(水病)
感染予防指導チーム委員会(水病) | 31(火) データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会 |
| 12(木) 医療連携症例検討会
歯科衛生士専門学校1年生夏期休暇
(~8/31)
薬事委員会(市病)
手術室運営委員会(市病) | 平成19年8月
1(水) 第39回全日本歯科学生総合体育大会
〔事務主管、松本歯科大学〕(~12日)
リスクマネージメント部会
ICT会議
省エネルギーの日・防災安全自主点検日 |
| 13(金) CPR + AED講習会(市病)
総合歯科運営委員会(水病) | 3(金) ICT委員会(市病)
6(月) 病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
医局長会 |
| 14(土) 歯科衛生士専門学校2年生夏期休暇
(~8/31) | 7(火) 看護部運営会議(市病) |
| 17(火) 環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
看護部運営会議(市病) | 8(水) リスクマネージメント部会(水病)
9(木) 業務連絡会 |
| 19(木) 大学院夏期ベシックセミナー(~20日)
千葉校舎課長会
業務連絡会
先進医療委員会
部長会(市病)
管理診療委員会(市病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
科長会(水病) | 10(金) 学生部(課)事務連絡会
15(水) 環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
19(日) 平成20年度臨床研修歯科医選考
20(月) 延世大学校歯科大学との学生交流プロ
グラム(延世大学、来校~24日)
機器等安全自主点検日 |
| 20(金) 機器等安全自主点検日
ICT委員会(市病) | 23(木) 入試ガイダンス〔於：千葉校舎〕
薬剤試験審査委員会
院内感染症予防対策委員会(市病) |
| 21(土) 5年生前期追・再試験
平成20年度臨床研修歯科医募集病院説明会 | 24(金) 歯科衛生士専門学校説明会
25(土) ピアノコンサート(市病) |
| 23(月) 財務打合せ会(水道橋校舎) | 31(金) 1~4年生夏期休暇終了 |
| 24(火) 蔵書点検(~26日)
大学院夏期ベシックセミナー(~26日) | 平成19年9月
1(土) 平成20年度第2回看護師採用選考試験
(市病) |
| 25(水) 病院連絡協議会(水病)
診療録管理委員会(水病)
院内情報システム検討委員会(水病) | 3(月) 1・2・3・4年生授業再開
6年生第2回総合学力試験(~4日)
歯科衛生士専門学校1・2年生授業再開
省エネルギーの日・防災安全自主点検日 |
| 26(木) 院内感染症予防対策委員会(市病) | 4(火) 教務部(課)事務連絡会
学生部(課)事務連絡会
看護部運営会議(市病)
口腔健康臨床科学講座会(水病) |
| 27(金) 教育ワークショップ
歯科衛生士専門学校説明会
歯科衛生士専門学校3年生夏期休暇
(~8/31)
社保委員会(水病) | 5(水) リスクマネージメント部会
ICT会議 |
| 28(土) 入試ガイダンス〔水道橋校舎〕 | |
| 30(月) 医療連携委員会 | |

- | | |
|---|---|
| 5 (水) 輸血療法委員会
臨床検査部運営委員会
千葉校舎課長会
歯科衛生士専門学校職員会 | 18 (火) 医療安全管理委員会 (市病) |
| 6 (木) 第255回大学院セミナー | 19 (水) 解剖慰霊祭 (水道橋校舎)
1・3・4年生前期定期試験 (~28日) |
| 7 (金) 大学院事務連絡会
ICT委員会 (市病) | 20 (木) 2年生前期定期試験 (~28日)
千葉校舎課長会
先進医療委員会
機器等安全自主点検日
部長会 (市病)
管理診療委員会 (市病)
医療安全管理委員会 (水病)
感染予防対策委員会 (水病)
個人情報保護委員会 (水病)
科長会 (水病) |
| 10 (月) 病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会 (ICC)
臨床教育委員会
医局長会
医療連携委員会
医療安全研修会 | 25 (火) 薬事委員会
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
第66回歯科医学教育セミナー |
| 11 (火) 教養科目協議会 | 26 (水) 第256回大学院セミナー
情報システム管理委員会
健康管理委員会 (水病)
病院連絡協議会 (水病)
診療録管理委員会 (水病)
院内情報システム検討委員会 (水病) |
| 12 (水) 基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
歯科衛生士専門学校臨床実習委員会
救急委員会 (市病)
薬事委員会 (水病)
臨床検査室委員会 (水病)
放射線委員会 (水病)
リスクマネジメント部会 (水病) | 27 (木) 歯科衛生士専門学校3年生前期試験 (~28日)
保険診療検討委員会 (市病)
院内感染症予防対策委員会 (市病)
治験審査委員会 (市病) |
| 13 (木) 業務連絡会
薬事委員会 (市病)
人間ドック運営委員会 (市病) | 28 (金) クリティカルパス委員会 (市病)
社保委員会 (水病) |
| 14 (金) 1・2・3・4年生前期授業終了
歯科衛生士専門学校1・2年生前期授業終了
CPR + AED講習会 (市病)
褥瘡対策委員会 (市病)
感染予防指導チーム委員会 (水病) | 29 (土) 平成20年度第3回看護師採用試験 |
| 15 (土) 歯科衛生士専門学校創立記念日
ピアノコンサート (市病) | |
| 18 (火) 臨床教授連絡会
全体教授会
人事委員会
歯科衛生士専門学校教員会
歯科衛生士専門学校1・2年生前期試験 (~28日)
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
看護部運営会議 (市病) | |

東京歯科大学広報 編集委員

内山健志（委員長）

浦田知明 江波戸達也 王子田 啓 金安純一 河田英司 坂本智子 椎名 裕 柴家嘉明 新谷益朗
高木直人 田口達夫 野島靖彦 伴 英一郎 橋本貞充 三木敦史 米津博文（平成19年9月現在）

編集後記

今、本学は創立120周年記念事業に向かってすすんでおります。すでにロゴマーク、記念切手などが検討され、nostalgicな写真を目にする機会も多くなると思います。

さて、本学キャンパスに関わる思い出深い場所を、編集後記の写真に連載していくことを前号でお知らせしましたが、今回は市川進学課程のキャンパスを選んでみました。

本学の進学課程は、昭和30年1月20日に認可され、その年の4月に予科を廃止すると同時に設置されました。進学課程の目的および使命は“医歯学専門課程に入学する者に豊かな教養と高い人格を養わせ、併せて必要な予備知識を修めさせるのを目的とする”と進学課程設置認可申請書に謳われております。2年間という短い期間ではありますが、入学した学生が教職員と身近に接し、人生の一頁をすごしました。

市川進学課程を知る人には、写真からどのようなことが思い出されるでしょうか。ゆとり、幼稚園のようなピンクの校舎、平屋建て、バラ、のどか、洪水と筏、思い出、LEBEN LIEBEN LEIDEN、クラブ、青春、名物教師、山崎パン、死語となったダンパなど、仄々と目に浮かんでくると存じます。

キャンパスの道路をへだてた隣は、現在、近代的な市川総合病院がそびえ立っております。当時、そこには茶道部や謡曲部が使わせていただいた血脇記念館、さらに食堂、合宿所、ポプラ並木そして汗を流したテニスコート、運動場、野球場と続いておりました。

勉学にクラブ活動に余暇に集會に激論に、そして恋愛に、市川の進学課程のキャンパスは、色々な青春の思いを滾らせたそれぞれの良き思い出が詰まったところでありましょう。

（広報・公開講座部長：内山健志）



大学広報はPDF版をオンラインで閲覧することができます。
<http://www.tdc.ac.jp/news/index.html>